週刊 YEAR BOOK

1961 昭和36年

日録20世紀

5|6
平成9年5月6日発行
(毎週1回発行)第1巻第12号
¥560
講談社

ガガーリン少佐、宇宙へ!

ピーク時には年間46万人!「金の卵」大モテ
アンネ発売が茶の間の"常識"を変えた
韓国でクーデター、朴正熙少将が権力掌握

「地球は青かった」
人類初の宇宙飛行士！
ガガーリン少佐の1時間48分

キューバ問題で米ソの緊張が高まる1961年、アメリカではケネディが第35代大統領に就任。韓国では軍事クーデターで朴正熙が権力の座についた。ソ連では、人類初の有人宇宙飛行に成功、宇宙時代の幕が切って落とされた。一方、日本はひたすら高度経済成長の道を歩み続ける。

▼モスクワ市民の興奮は、4月14日、ガガーリンがブヌコボ空港に到着した時点で最高潮に達した。祝賀会は、人出も飾りつけも革命記念日をしのぐほどだった。 ノーボスチ通信社

4月12日、バイコヌール宇宙基地から打ち上げられる3段式ロケット「ボストーク1号」。

◀ガガーリンを乗せた帰還カプセルが、無事着陸。

▼出発直前、ロケットの主任設計者コロリョフ(右)の見送りを受ける。 ノーボスチ通信社

宇宙船は地球を一周後パラシュートで地上に

「党と政府、ならびにニキータ・セルゲービッチ・フルシチョフ首相に報告していただきたい。着陸は正常に行われた。気分は良好、負傷も打撲もありません」

人類初の宇宙飛行士ユーリ・ガガーリン少佐（二七）の帰還第一声だった。

一九六一年四月一二日午前九時七分（日本時間同日午後三時七分）、ガガーリン少佐が乗った人類初の宇宙船は、西シベリアの宇宙基地・バイコヌールから打ち上げられた。

打ち上げに使われたのは、「ボストーク（東方）一号」。三段式のロケットは次々に切り離され、第一宇宙速度と言われる秒速七・九キロメートルに達した重量四・七トンの宇宙船は、みごとに軌道に乗る。その後太平洋を南東に向かいながら次第に高度を上げ、遠地点三〇二キロの楕円軌道を描いて地球を一周。同日午前一〇時五五分（日本時間同日午後四時五五分）、サラトフ州スメロフカ村に帰還した。

降下指令が下されたのは、その三〇分前の一〇時二五分。無線で信号が送られ逆推進ロケットが点火、地上七・五キロで気密状態の船室は噴出装置により宇宙船からはじき出された。まもなくパラシュートが開き、ガガーリン少佐は大地に足を踏み降ろした。飛行時間は一時間四八分であった。

ガガーリンはソ連空軍降下部隊の教官をつとめ、二人の子どもを持つ青年将校で、宇宙飛行士にはみずから志願して参加。「空はとても暗かったが、地球は青かった」という彼の証言は歴史に刻まれ

◎表紙 「私は今地球を見ている。万事正常、士気もさかん」──27歳の空軍少佐ガガーリンは、宇宙旅行の扉を開いた。 ノーボスチ通信社

ソ連の宇宙飛行士たちは語る

▲「宇宙のコロンブス」ガガーリン少佐。 ユニフォトプレス

ソ連は1963年までに、6人の宇宙飛行士をボストーク宇宙船で送り出したが、彼らは世界にさまざまなメッセージを送った。宇宙船の窓から地球を見たガガーリン少佐は、「飛行中私は初めて球状の地球の形を見ることができた。それは地平線のかなたをながめた時のそれと同じように思える。地平線のながめは独自の美しさを持っている。地球の明るい昼の部分から夜の星が見える真っ暗な面に移っていく境目にも、このような異常な美しさが見られる。言葉ではとても言い表せない」と語った。

1961年の2号で25時間18分の飛行を続けたチトフ少佐は、「無重力状態に入った最初の感じは、数秒間さかさまに宙吊りにされたようだったが、その後すべて正常な感じとなった」と報告。3号に乗りこんだニコラエフ少佐は、「昼食後に体操をした。この体操は筋肉の緊張を解きほぐすため、地上において特別にプログラミングされたものであった」と述べ、4号のポポビッチ中佐は、「私が紙ナプキンを使用したため、たちまち船内に紙が飛び散り、それを電気掃除機で吸いとった」と船内の様子を説明している。宇宙空間で最初に部屋掃除をした人となったわけだ。そして6号に乗りこんだ初の女性宇宙飛行士、テレシコワ少尉は、「月や火星、金星へ行く宇宙探検隊に私も是非参加したい」と未来への抱負を語った。

▲勢揃いしたソ連の宇宙飛行士。左から、ゲルマン・チトフ、ユーリ・ガガーリン、ワレンチナ・テレシコワ、ワレリー・ブイコフスキー、アンドリアン・ニコラエフ、パーベル・ポポビッチ（機密保持のため、撮影場所、年月日は不明）。 ノーボスチ通信社

▼4月14日、ブレジネフ最高会議幹部会議長から称号と勲章を授与される。 ノーボスチ通信社

ることになった。

モスクワに流れた曲「あなたが最初だ」

有人飛行の成功は、ソ連国内だけでなく世界中を震撼させた。ニュースを聞いたモスクワ市民は、帽子を空に高く投げ上げ、その瞬間に合唱曲「あなたが最初だ」が街に流れ出した。学校や職場、ホテルなどには人々が集まり、この快挙をたたえる集会が開かれるなど、まさにお祭り気分に沸き立った。

ソ連政府は「宇宙開発での勝利は、わが国民だけの達成ではなく、全人類の達成である。我々は全人類の進歩、幸福のために喜んで奉仕したい。したがってまず第一にしなければならないのは平和の確保である」と声明を発表。一方、冷戦下、宇宙開発でもしのぎを削っていたアメリカのケネディ大統領は「太陽系への探査こそは、ソ連とともに我々人類のすべてが抱く一大念願であり、ソ連のこの成功は、そのゴールの重要な第一歩を印したと言える」と祝福のメッセージを送り、その約一ヵ月後の五月二五日には「六〇年代に人間を月に着陸させる」と演説し、アポロ計画がスタートした。

一九五七年一〇月の人工衛星「スプートニク一号」打ち上げ以来、またも先を越されたアメリカ国民のショックは大きかった。全米一の新聞社が行った反響調査によると、「ロシアのウソッパチだろう。アメリカをやっつけるための宣伝だ。でもケネディはやっつけられないよ」と言う人も現れるほどだった。

当時、ソ連が宇宙開発でアメリカに一歩先んじえたのはなぜか。宇宙工学アナリストの中富信夫氏は次のように語る。

「第二次大戦後、ドイツの優秀なロケット技術は科学者たちも含め、アメリカとソ連の奪いあいになっていたが、ソ連はそれを一枚岩になって受けとめた。それに対してアメリカは陸軍と海軍の確執や旧敵国だったドイツの科学者に対する偏見ややっかみなどもあり、開発がスムーズに進まなかった。いわば、共産主義と自由主義という国家体制の差が大きく影響していると思います」

一丸となったソ連の宇宙開発は着実であった。ソ連が宇宙船に目標を定めたのは前年の一九六〇年、等身大の人形を乗せた宇宙船第一号に続き、ライカ犬二匹を乗せた第二号は、同年八月一九日に打ち上げられ、無事地上に着陸した。その後も実験が繰り返され、宇宙船第六号がついに人類初の宇宙飛行士・ガガーリン空軍少佐を宇宙へ送り出したのである。

宇宙開発にかけた資金も膨大なものであった。六一年度の宇宙開発費は四二億ドルと言われ、六一年アメリカの航空宇宙局の予算七億七〇〇〇万ドルと比べてみても、その差は歴然としていた。ソ連の六一年度予算での歳出は八五三億六〇〇〇万ドルだから、宇宙開発費はその五パーセントにもあたる。

こうしてソ連は宇宙への扉を開いた。この宇宙飛行でガガーリンは「ソ連の英雄」の称号とレーニン勲章を贈られたが、七年後、ジェット機の訓練飛行中に事故死。その後次々に宇宙へ飛び立った人々の礎となったのである。

▼出迎えたフルシチョフ首相夫妻（右）と、宇宙船の記事に見入るガガーリン夫妻。

ピーク時には年間46万人が就職！

高度経済成長を支えた「金の卵」たち

●新潟県から東京都世田谷区の商店に集団就職した3人の「金の卵」。月2回の定休日、いつもは店に近い渋谷に出るが、この日は浅草へ。　朝日新聞社

▲肉親と別れ、未知の社会への不安と希望に心も揺れて……。写真は、奄美大島から上京して集団就職した中卒者たち。　毎日新聞社

詰め襟にセーラー服、それに新品のダスターコートをまとい、手にボストンバッグひとつを提げて、上野駅に降り立つ集団就職の中卒者。彼らは、月給三〇〇〇円から四〇〇〇円という薄給で、高度経済成長を根底から支えた。「金の卵」と呼ばれた少年少女たちも、まもなく還暦を迎えようとしている。

辛い労働条件のもとで一国一城の主を夢見て

その春中学を卒業し、県外に就職する六二二人の少年少女を乗せ、デゴイチの引く列車八両が青森駅から上野駅に向け出発したのは、昭和二九年四月五日の午後だった。集団就職列車の第一号である。

「列車に子どもたちが乗りこむと、親たちはわが子の座席の窓をたたいて叫ぶんです。それも決まって『風邪ェひくな』『車サ気ィつけろ』なんですね。『がんばれ』でも『親方の言うことをよく聞け』でもない。泣くんじゃないよ、って涙声で言ってました」

集団就職で都会に出て来た若者たちのオアシスとなり、ピーク時には三万人の会員を擁した「若い根っこの会」の加藤日出男会長は、何度も目にしてきた別れの場面をこう回想する。

「集団就職は、一九六〇年代から七〇年代初めにかけてが最盛期でした。訛りを笑われ、労働時間も長く、そのうえ、休みも月二回ならよい方、という辛い条件のもとで、一国一城の主を夢見ていたのが彼らでした。その彼らが一番ほしがっていたのがバイクでしたね」

▼やっと人材を得ることができた町工場主や商店主は、深々と頭を下げて出迎える。　毎日新聞社

中学卒業者が「金の卵」と言われ、引っ張りだこになり始めたのは、一九五〇年代の後半から。言い換えれば高度経済成長のはしりの頃からである。昭和三五年、池田内閣の所得倍増計画を受け、経済大国への道をひた走り始めた日本は、空前の人手不足に直面した。そして、求人は月給が三〇〇〇円から四〇〇〇円という賃金の安い中卒者に集中していく。ちなみに、この年の初任給平均は、高卒者で一万一五六〇円、大卒者で一万七一七九円（都労働局調査）だった。

東京オリンピックの昭和三九年には、中卒求人数が一七一万人強とピークに達した。これに対して実際の就職者数は、三八年の四六万人が最高で、求人が求職の四倍にも達する状態だった。

その後、高校進学者の急増、つまり中

卒就職者の激減にともなって、「稀少価値」はますます募っていく。高校の進学率が五〇パーセントを超えたのは昭和二九年だったが、その後も進学率は高まる一方で、一九六〇年代後半に七五パーセント、七〇年代に入ると九〇パーセントを超し、その後現在まで九四～九五パーセントと横ばいが続いている。それにともなって「金の卵」は「ダイヤモンド」に、ついには「月の石」とまで言われる。

昭和二九年、大阪府労働部が、直接集団就職を斡旋したのを皮切りに、集団就職はまたたく間に全国に波及。

さらに、労働省が集団就職者の輸送対策として、これまで個々に取り組んでいたものを、交通公社に依頼し、全国統一の計画輸送方式としたのは、昭和三七年秋である。三八年から五一年まで続けられた就職列車で、都会に出た少年少女は、合わせて五五万人余りにのぼった。これは、より合理的な輸送の実現という目的だけではなく、職安職員を求人企業のサービス攻勢から遠ざけるための緊急避難という色彩もおびていた。実際、当時は「金の卵」を求めて血眼になった企業から、職安所長、中学校長が金品を受け取り、逮捕される事件が続出したのである。

▲食事つきで実働8時間。最初の2～3日は慣れない生活や仕事に戸惑い気味だったが、たちまち旺盛な食欲を発揮。 朝日新聞社

誰もが持って上京した卒業文集と寄せ書き

昭和三五年春、秋田県大曲市の中学を卒業した菅原宏さん（五二）は、大田区の機械工場に手取り月給四〇〇〇円で就職して以来、六回の転職を繰り返した後、独立した。現在は同じ集団就職組で「若い根っこの会」で知り合った夫人と、埼玉県でプラスティック金型工場を経営している。会社の設立から二四年、年商四億円弱の町工場に育て上げ、ロータリークラブの会員になるなど、集団就職組の成功者である。熱心な「若い根っこの会」の会員でもある菅原さんは言う。

「持ってきたのはわずかな着替えと、布団袋。仕事が好きだったから自分ではそう苦労したとは思っていないんですが」

だが、その菅原さんも、ヘルニアに冒され、入退院を繰り返した時期もあった。高度経済成長を根底で支えた「金の卵」も、"一期生"はまもなく還暦を迎えようとしている。一方で成功したものもいれば、リストラの嵐に見舞われたもの、独立して商店主となったが、スーパーの攻勢で店じまいを余儀なくされたものなどとさまざまである。

彼らが故郷を離れた時、共通して手にしていたものがある。卒業文集と寄せ書きだ。何人が今もそれを手元に置いているのだろうか。

女たちの肖像
テレビ文化のスター ザ・ピーナッツが選んだそれぞれの道

稲葉真弓

この年の六月、日本テレビで始まった「シャボン玉ホリデー」は、コント、歌、軽快なギャグありで、海外のショー番組のような斬新さが受け、昭和四七年一〇月まで一一年間、日曜夕方のバラエティー番組として圧倒的な支持を得た。ホスト役はクレイジー・キャッツのハナ肇、ホステス役は二〇歳の一卵性双生児ザ・ピーナッツで、モダンな容姿が茶の間の人気を呼んだ。

彼女たちがデビューしたのは、皇太子ご成婚で沸いた三四年。折しもテレビ時代の幕開けの年だった。横長のブラウン管の中にぴったりおさまる相似形のまん丸い顔、ミニドレスに身を包んだ姉妹は絶妙のハーモニーで「可愛い花」「情熱の花」のヒットを飛ばし、同年フジテレビで始まった伝説的音楽番組「ザ・ヒットパレード」にもしばしば出演、一九六〇年代の夢＝テレビ文化を代表するスターとして語り継がれる存在となった。

ザ・ピーナッツを見つけたのは、後に「タレント王国」と称されるようになった渡辺プロダクション社長の渡辺晋。歌手になりたいと名古屋市内のクラブで歌っていた一七歳の伊藤日出代（芸名エミ）、月子（同ユミ）の姉妹をスカウト、自宅に同居させ、作曲家の宮川泰に特訓を受けさせるほどの惚れこみようだった。

ザ・ピーナッツという名は、ひとつの殻に二つ実が入った南京豆からつけられたが、この名前は親しみやすさから大成功。「ふりむかないで」「ウナ・セラ・ディ東京」と次々とヒット曲を生み多くのファンを魅了した。が、デビューから一六年後の昭和五〇年四月「惜しまれるうちにやめたい」と引退を表明。二ヵ月後、姉のエミが七歳年下の歌手・沢田研二（ジュリー）と結婚し、話題を集めた。以来姉妹は、一方は専業主婦、一方はファッション関係とそれぞれの道を歩むことになったが、六二年、沢田が女優の田中裕子に走ったことから電撃離婚。土地、家屋などの資産約一七億円を現物支給という"慰謝料"がマスコミをにぎわした。

今、姉妹は外国人用に高級邸宅を貸す不動産業を営み、妹のユミはデザイナーとしても活躍。芸能界を離れた悠々自適の生活だが、一九六〇年代を席巻した彼女たちの歌は不滅。最近、復刻CDも発売され、レトロブームに乗って人気を集めている。

▲西陵商業高在学中からステージに立っていた。

勝者・敗者
「柔道」から「JUDO」へ うまさをパワーで圧倒して ヘーシンク、日本勢に完勝！

阿部珠樹

昭和三九年の東京オリンピックで、日本人にとって最も衝撃的だったのは、"お家芸"のはずの柔道無差別級で、日本の神永昭夫がオランダのアントン・ヘーシンクになすすべなく敗れたことだった。これによって、日本人の多くは、漢字の「柔道」がローマ字の「JUDO」に変わったことを痛感させられたのだ。

しかし、柔道からJUDOへの転換は、その三年前、昭和三六年のパリで、すでになしとげられていたのである。

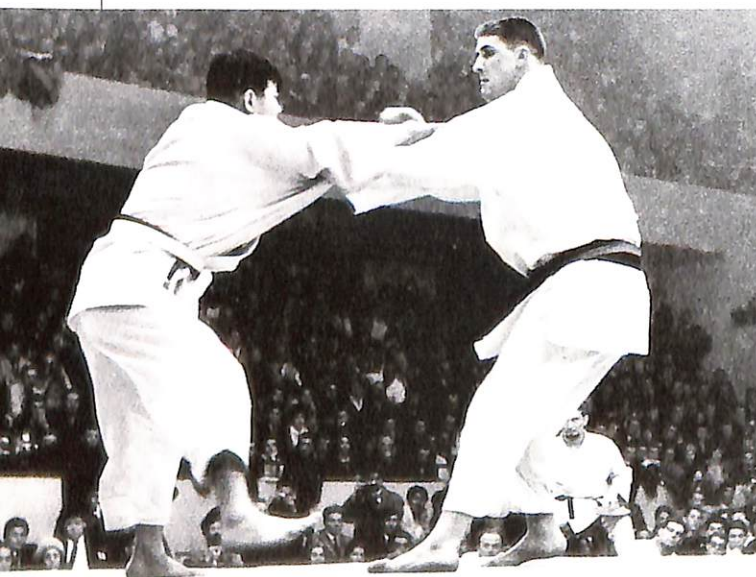
三六年の一二月、パリで開かれた柔道の世界選手権は、階級分けなし、いわば無差別級のみの大会で、日本からは三選手が出場していた。順調に勝ち進む日本選手。その前に立ちはだかったのがヘーシンク（二七）である。準々決勝で、まず神永を破ったヘーシンクは、準決勝でも古賀武を開始わずか一分二〇秒、内股一本で斬って捨てると、決勝では曽根康治と対戦する。

曽根は、この大会の三年前に世界選手権で優勝したディフェンディング・チャンピオン。三三歳のベテランだったが、巧妙な試合運びには定評があった。しかし、ヘーシンクは、曽根のうまさを、圧倒的なパワーと集中力で粉砕する。

試合開始直後から、曽根に有利な組手を許さず押しまくるヘーシンクは、開始六分、巻込で曽根をぐらつかせる。七分すぎには、苦しまぎれに大内刈に来たところを、支釣込足で返して抑込に入る。身長一九八センチ、体重一一八キロ、当時としては抜きんでた巨体のヘーシンクに抑え込まれては、曽根に勝ち目はなかった。抑込一本。柔道世界一のタイトルが初めて日本から流出した瞬間だった。

「偉大な日本選手に勝てるとは、夢にも思っていなかった」

謙虚に喜びを語るヘーシンクに対し、曽根は、「ヘーシンクはまったく強い」と完敗を認めた。その敗北が曽根一人の限界でなかったことは、三年後、東京の武道館の畳で、鮮やかに証明されることになる。

◀昭和四八年には、プロレス入りしたヘーシンク。 WWP

ユニフォト・プレス

共同通信社

▶**横浜港にマリンタワー完成（1月15日）**開港100年を記念して山下公園に建築。灯台の高さ106メートルは世界一でギネスブックにも掲載。地上91メートルに展望室、基部に海洋科学博物館がある。

◀**ケネディ、米大統領に就任（1月20日）**就任後の演説でニューフロンティア精神を強調、「国が何をしてくれるかではなく、国のために自分が何をできるかを問うてほしい」と訴えた。写真はワシントンでの就任式で宣誓するケネディ（中央）。

▶**北陸地方、雪に埋まる（1月1日）**前年末の26日以来、記録的な豪雪に見舞われ、上越線、信越本線、北陸本線などの運行が全面的に麻痺、帰省客を正月2日まで足止めした。写真は北陸本線呉羽駅で立ち往生した列車。

毎日新聞社

読売新聞社

朝日新聞社

◀**医師一斉休診（1月31日）**医師会、歯科医師会が診療費増額要求の闘争を展開した。この日、東京都医師会は一斉休診を指令、開業医約5500人がデモ行進を行った。

▲**柏戸、大鵬を圧倒（1月18日）**初場所11日目、大関同士の対決は柏戸（右）が一気の寄りで快勝、13勝2敗で優勝した。二人はこの年秋場所後、横綱に同時昇進する。

昭和36年1月

1（日）●岩手県の松尾鉱山小学校で、新年祝賀会後に児童が階段で将棋倒しとなり一〇人が圧死。
2（月）●豪雪で不通の北陸本線などが運転再開。
3（火）●米政府、革命キューバとの国交断絶を発表。
4（水）●東京で中卒就職試験開始。求人が求職の三倍。
5（木）●防衛庁建設本部長ら、新島ミサイル試射場建設反対派を説得のため現地入りするが失敗。
6（金）●溝口健二監督「山椒太夫」に仏映画批評家賞。
7（土）●東京陸運局、タクシー不足解消のためハイヤー、タクシーの二〇〇〇台増車を認可。
8（日）●仏でアルジェリア自治に関する国民投票実施。
9（月）●生産性本部の余暇調査で「ごろ寝」が一番人気。
10（火）●健康保険連、医療費値上げ反対で初のデモ。
11（水）●岐阜県の新幹線駅を羽島市にと国鉄が最終案。
12（木）●大蔵省、輸出入実績は戦後最高と発表。
13（金）●神奈川県の東海道本線踏切で上下列車とダンプカーが二重衝突。五人死亡、九七人重軽傷。
14（土）●小坂外相、ビルマ賠償の日本側再提案を提示。
15（日）●横浜港にマリンタワーが完成、営業開始。
16（月）●都歯科医師会、診療費増額を要求し一斉休診。
17（火）●総評や主婦連が物価値上げ反対懇談会を設立。
18（水）●自動車工業会、三五年の自動車生産台数は四八万一五四九台で、前年比八三・二％増と発表。
19（木）●ラジオ第二で聴取率零％が九八番組とNHK。
20（金）●ジョン・F・ケネディ、米大統領に就任。
●東京地検、サド『悪徳の栄え』出版で、出版社社長と翻訳者の澁澤龍彥を猥褻罪で起訴。
21（土）●東京の中野刑務所で、囚人二人が看守を絞殺して脱走（翌日、一人は自首、一人は逮捕）。
22（日）●ソ連製小児麻痺ワクチン四〇万人分が羽田着。
23（月）●「国鉄スワローズ」球団への補助中止と運輸相。
24（火）●山梨県石和町の畑で温泉湧出（石和温泉）。
●キヤノンカメラ（現・キヤノン）、自動露出カメラ「キヤノネット」を発売し即日完売。
25（水）●警視庁、通勤ラッシュの事故防止のため、中央線阿佐ケ谷・荻窪両駅に機動隊員を出動。
26（木）●西独、日本の炭鉱離職者の受け入れを申し出。
27（金）●東京地裁で全学連が国会突入をはかった六・一五事件（35年）の公判が始まる。
28（土）●新潟市で県立がんセンター新潟病院の完工式。
29（日）●インドネシア海軍、大洋漁業の冷蔵船を拿捕。
30（月）●東京で右翼千余人が「革命から国民守る」集会。
31（火）●ルバング島で元日本兵らしい二人が島民二人を殺傷し食糧を強奪、と地元警察が発表。

ニュース・ファイル

1961

フォト＋日録で再現する365日

池田内閣の所得倍増政策初年度を迎えて、高度経済成長時代の幕が開いたが、大量のニセ千円札、睡眠薬遊びの流行など、社会の歪みも広がりつつあった。南極から四年半ぶりに戻った樺太犬タローの目に、故国の変貌はどう映じたろうか。

◀**ご苦労さま、タロー（5月4日）**南極観測船「宗谷」が174日ぶりに帰国。祝賀式には無人の極地で越冬して話題になった樺太犬タローも参列。4年半ぶりの帰国をねぎらう動物愛護協会から折り紙の花輪が贈られた。

朝日新聞社

▼**殺された「コンゴの星」ルムンバ(2月13日)**カタンガ州政府は「9日に村民が殺害」と発表した。反対派による虐殺とする説が強いが、真相は不明。写真は逮捕時。

WWP

▶**中央公論社・嶋中社長宅襲われる(2月1日)**家事手伝いの女性を刺殺、夫人は重傷。元愛国党員(17)が「中央公論」の深沢七郎作「風流夢譚」が不敬だと動機を自供した。

読売新聞社

▶**再建された大阪・四天王寺金堂で壁画披露(2月13日)**画題は「仏伝図」。土佐派に学んだ画家・中村岳陵が壁ごとに「生誕」「出門」や「涅槃の図」(写真)などを描いた。

毎日新聞社

▼**新島ミサイル騒動激化(2月11日)**防共挺身隊ら右翼団体約20人が、総評、社共らの反対派支援オルグ団120人の上陸を阻止しようと、小競り合いとなった。

読売新聞社

朝日新聞社

▲**名古屋の御園座焼ける(2月28日)**東京の歌舞伎座とともに名芝居小屋として盛業を続けてきたが、無残な残骸となった。写真は藤山寛美(中央奥)、渋谷天外(その左隣)ら公演を予定していた松竹新喜劇の一行。

昭和36年2月

1(水)●深沢七郎の「風流夢譚」に抗議の右翼少年が中央公論社の嶋中鵬二社長宅を襲う。
●都庁、交通緩和のため初の時差出勤を実施。

2(木)●長岡市を中心にM五・二の地震。五人死亡。

3(金)●北朝鮮、帰還者急減で配船中止の申し入れ。

4(土)●灘の酒造組合が大気汚染調査結果を発表し、汚染の進行で品質が危ぶまれる、と新聞に。

5(日)●船橋市沖のカモ猟船で猟銃を誤射。一人死亡。

6(月)●徳島大学医学部放射線教室、徳島―東京間で日本初のX線テレビによる遠隔診療を行う。

7(火)●中央公論社、各紙上で「風流夢譚」掲載を謝罪。

8(水)●銀行、公社債投信急膨張に大蔵省の対策要望。

9(木)●東京でインフルエンザ流行。小・中・高校の学級閉鎖は一一二二校六一九三学級と都が発表。

10(金)●大和銀行、住宅ローンの融資を始める。

11(土)●全国一五〇ヵ所で右翼が紀元節復活集会開催。

12(日)●警視庁、日本の重要美術品のニセ物を製作し、海外で売ろうとしていた中国人を逮捕。

13(月)●東証、証券ブームで事務処理が停滞したため立ち会い時間を短縮(~3月12日)。

14(火)●俳優・赤木圭一郎、東京の日活撮影所でゴーカートを運転中、鉄扉に激突し重傷(21日死亡)。

15(水)●長島愛生園の光田健輔がハンセン病救済のダミアン・ダットン賞を受賞、同園で伝達式。

16(木)●長野県栄村で雪崩。四家屋潰れ一一人が死亡。

17(金)●経済再建懇談会(財界の政治寄金機関)が解散。

18(土)●外国からの技術導入申請が激増と新聞に。

19(日)●日本医師会、診療費の増額求め全国一斉休診。

20(月)●厚生省、不良薬品・化粧品を製造・販売していた一九社に最高三〇日の業務停止処分。

21(火)●警視庁、嶋中事件で赤尾敏を殺人教唆で逮捕。

22(水)●日本・琉球政府、沖縄本島での遺骨収集開始。

23(木)●八幡製鐵、野村証券通じ増資公募株を初めて一般投資家に売り出す。約一時間で売り切れ。

24(金)●東京地裁判事・飯守重任、嶋中事件は左翼「集団暴力」が原因と発言(右翼テロ是認と問題化)。

25(土)●小田実『何でも見てやろう』刊行。
●日本医師会、診療費増額闘争の一環として全国で保険医辞退戦術を展開。八割が辞退。

26(日)●政府、北方領土引揚げ者に交付金支給を決定。

27(月)●炭労、石炭政策の変更求め全国で一斉スト。
●宮崎市南東でM七・〇の地震(日向灘地震)。

28(火)●西村防衛庁長官、二次防に関し防衛費は国民所得の二%前後が目標と衆院内閣委で答弁。

朝日新聞社

▲**絶滅の危機にあるトキを救おうと高校生らがカンパ活動(2月)**横浜市の高校2年生を会長とする日本少年野鳥クラブの会員で、1ヵ月半で集めた8万6855円を保護資金として佐渡島のトキの営巣地・新潟県新穂村に渡した。

▼**毒入りぶどう酒殺人事件(3月28日)**名張市の生活改善クラブの会合で女性5人死亡、10人が重体。元会長・奥西勝が三角関係の清算のためと自供、47年に死刑判決が出たが、後に数次の再審を請求。

▲**日光東照宮の薬師堂、全焼(3月15日)**重文指定の建物で、有名だった狩野安信筆の天井画「鳴竜」も炎に包まれた。原因は暖房用電熱器の不始末。昭和41年再建、「鳴竜」も復元された。

毎日新聞社

▲**福岡の上田鉱業上清炭鉱で坑内火災(3月9日)**坑内のコンプレッサー室から出火、充満した煙で作業員91人のうち71人が窒息死、戦後6番目の坑内事故となった。写真は16日に行われた合同葬儀。

毎日新聞社

▶**京都の西本願寺で親鸞700年大遠忌(3月10日)**西本願寺では親鸞ゆかりの御影堂に、全国各地から約8000人の信徒が集まり、弘長2年(1262)に逝った宗祖の遺徳をしのんだ。

朝日新聞社

昭和36年3月

1(水)●東北本線上野―仙台間の電化が完成。

2(木)●川崎競馬で本命馬出走中止騒ぎで三〇人負傷。

3(金)●エクアドルからの初のバナナ船が横浜に入港。
●医師会、自民党の妥協案に合意し闘争を終結。

4(土)●横須賀市で白タク取締り中の警官を、白タク五〇台が包囲し暴行。警官八人が負傷。

5(日)●前年からの新宿の麻薬取締りで一七二人逮捕。

6(月)●桜島が観測史上二番目の規模の爆発(~7日)。

7(火)●閣議、公共料金値上げの一時凍結を決定。

8(水)●都内米穀商、小売マージン倍増求め一斉休業。
●社会党大会、構造改革路線を確定、河上丈太郎委員長、江田三郎書記長を選出して閉幕。

9(木)●福岡県香春町の上清炭鉱で火災。七一人死亡。

10(金)●神社本庁、「不敬罪」制定請願運動を始める。

11(土)●琉球米民政府、日米琉懇話会設置要請を拒否。

12(日)●東京・池袋署、米軍演習場で拾った大量の弾丸と薬莢を持っていた少年二人を補導。

13(月)●公労協九組合、「スト宣言」を発表。政府反発。

14(火)●旭化成、ソ連と建設資材シリカリツィートの製造独占契約に調印。初の日ソ技術提携。

15(水)●元外相・有田八郎、『宴のあと』はプライバシー侵害として著者の三島由紀夫らを告訴。
●日光東照宮内の重文、薬師堂から出火し全焼。

16(木)●神戸で初の国産水中翼船「どるふぃん号」完成。

17(金)●許広平(魯迅未亡人)ら中国婦人訪日団が来日。

18(土)●都住宅局、値上げ反対で一年間家賃未納の一〇九四戸に立ち退き要求書を出すと発表。

19(日)●タクシーなど二万台が賃上げ要求で全国スト。

20(月)●通産省、重工業関係自由化三〇〇品目を発表。

21(火)●仏映画「素晴らしい風船旅行」封切。

22(水)●宇野精一・舟橋聖一ら五委員、表音主義に反対し国語審議会からの脱退を表明。

23(木)●看護婦・保健婦・保母志願者が激減と新聞に。

24(金)●都知事、五輪に備え道路建設本部設置を発表。

25(土)●アラビア石油採掘の原油を積んだ第一船、日本に向けペルシア湾沖の油田を出発。

26(日)●都心の小学校で児童の減少が目立つと新聞に。

27(月)●東京地裁、第二次砂川事件差し戻し審で有罪。

28(火)●アジア・アフリカ作家会議東京大会を開催。
●名張市で毒入りぶどう酒を飲み女性五人死亡。

29(水)●池田首相、衆院で「台湾は中国の一部」と答弁。

30(木)●三六年度住宅建設は二一〇〇戸と都住宅公社。

31(金)●東洋大学、日本光学・日立製作所などの資金援助で、産学協同方式の工学部を設立。

▲**世界卓球選手権北京大会で日本男子複2連勝(4月14日)**9日に女子が団体で優勝。この日の複合決勝戦で星野・木村組がハンガリーを破り優勝した。写真は中国との準決勝戦。

読売新聞社

◀**ケネディ、アイゼンハワーと会談(4月22日)**19日にキューバ反革命軍の上陸作戦は失敗。米ソ間は一触即発の危機となり、元大統領の助力を必要とした。写真は会談を行ったキャンプ・デービッド山荘を歩く二人。撮影者ペイシスはピュリッツァー賞を取った。

▼**ライシャワー大使着任(4月19日)**この日、夫人と娘をともない羽田空港に到着。東京生まれで、ハル夫人は松方正義の孫。日本研究者で、アメリカきっての日本通と言われ、流暢な日本語で着任挨拶を行った。

▼**伊豆のトンネル内で落盤(4月16日)**工事中の静岡県東伊豆町の伊豆急行鉄道東町トンネル(全長318メートル)の中央あたりが18メートル崩れた。13人が生き埋めになり、救出作業にもかかわらず11人が死亡した。

野上透

▼**どぶ川に胎児の死体が50体(4月30日)**大阪市東淀川区で発見。翌日、死産胎児の事後処理専門会社社員が、運ぶのが面倒になって捨てたと自供、自宅からさらに80体が見つかった。

朝日新聞社

昭和36年4月

1(土)●拠出制国民年金発足。登録者は一七〇〇万人。
●都内の信金が小口無担保融資の受付を開始。
2(日)●前年の海外移住者が戦後初めて八〇〇〇人を超え、うち八割はブラジル移住、と新聞に。
3(月)●NHK、テレビ小説第一作「娘と私」放映開始。
4(火)●都清掃局、ゴミ箱からポリ容器へ転換を実施。
5(水)●北海道日高の北電電源開発工事現場で雪崩。三四人が死亡・行方不明、一一人重軽傷。
6(木)●自衛隊の戦闘機四機が吹雪で墜落。四人死亡。
7(金)●東京文化会館落成式。ホールの規模は東洋一。
8(土)●東京・池袋署、少年窃盗組織「日東会」の小中学生ら三七人をこの日までに補導。
●NHK、バラエティーショー「夢であいましょう」の放映開始(司会・中島弘子)。
9(日)●北京での世界卓球選手権で、日本女子が優勝。
10(月)●日米ガット関税交渉妥結。一八品目引き下げ。
11(火)●イスラエルで元ナチスのアイヒマン裁判開始。
12(水)●ソ連、初の有人宇宙飛行に成功。ガガーリンが乗った「ボストーク一号」が地球を一周。
13(木)●国民年金保険料の初の徴収が全国で始まる。
14(金)●南ア内相、日本人を「白人並みに扱う」と言明。
15(土)●東急バスが東京初のワンマンカー運行を開始。
16(日)●伊豆急行のトンネル工事で落盤。一一人死亡。
17(月)●東京で世界音楽祭開幕(~5月6日)。
●米軍に支援されたキューバ反革命軍、キューバ南部の海岸に進攻(4月19日撃退される)。
18(火)●東京で集団就職者向け「特別青年学級」開講。
19(水)●新駐日米大使にE・ライシャワーが着任。
20(木)●厚生省、赤痢増加に給食への監視強化を通達。
21(金)●琉球立法院、「琉球人民代表の日本国会への参加を要請する」との決議を全会一致で可決。
22(土)●名鉄、国内初の前面展望室式電車を完成。
23(日)●東京・大田区の小学校で初の父親日曜参観。
24(月)●韓国警備艇、済州島沖で操業中の日本漁船を銃撃・拿捕。救援の巡視船が警備艇と衝突。
25(火)●川越市に「若い根っこの会館」が完成。
26(水)●就職問題懇で就職試験協定順守を申し合わせ。
27(木)●都民生局が婦人の実態調査。五八%の女性が、家事労働が数年前より楽になったと回答。
●経企庁、初の『物価白書』。上昇鈍化を予測。
28(金)●沖縄で二万人参加し祖国復帰県民総決起大会。
29(土)●自民党と民社党、社会党欠席の衆院本会議で農業基本法案を強行可決(6月12日公布)。
30(日)●大阪市で胎児の遺棄死体が五〇体見つかる。

証言・あの日この日
外村 繁(58)

4月21日(金)〈私達の町の商店街は、毎月10日に一斉休店することになってゐた。ところが最近、20日にも休業するやうになった。商店主達の経営の合理化といふよりは、人手不足による、窮余の一策ではなかったか、とも思はれる。近来、小店員の志望者は想像以上に少くなってゐるらしい。つまりいはゆる「丁稚制度」は、急速に崩壊しつつあるもののやうである〉(外村繁『阿佐ケ谷日記』)

東京都の労働局が発表した『白書』では、この年春の中卒者に対する求人は約18万人(そのうち6割が地方中卒者へのもの)。しかし地方から東京へ就職した中卒者は三、四万人。彼らは「金の卵」と呼ばれた。好景気のせいといわれたが、外村はそれだけでなく、原因のひとつは〈制度そのものの封建性〉にあると見る。だから彼は続けて、街の植木職も老人ばかりだと書いている。(坪内祐三)

毎日新聞社

▲**生ワクチンを早く(5月13日)**小児麻痺が多発する中、子どもを小児麻痺から守る中央協議会などの代表約300人が陳情。7月に厚生省は緊急輸入したソ連製などの生ワクチンの投与を開始した。このため患者は大幅に減った。

▼**米、有人宇宙ロケット飛行に成功(5月5日)**シェパード中佐を乗せた「マーキュリー」は大気圏に突入し、14分47秒後バハマ沖に着水した。写真は同中佐と回収後のカプセル。

WWP

◀**姿消す日本最古の熔鉱炉(5月8日)**火入れから60年の歴史を持つ八幡製鉄東田第一熔鉱炉。老朽化と合理化には勝てず、37メートルの巨体が、10時間かけて引き倒された。

朝日新聞社

毎日新聞社

▲**青森県八戸市で700棟全焼(5月29日)**フェーン現象のため三陸各地で火災が多発。八戸市では強風にあおられ、10時間も燃え続けた。警察は原因を放火と断定した。

読売新聞社

◀**ナット・キング・コール日本公演(5月)**東京など全国4ヵ所でヒット曲「モナ・リザ」などを歌った。写真は9日、東京・産経ホールで。

昭和36年5月

1(月)●キューバのカストロ首相、社会主義化を宣言。
●帝人、半袖シャツ「ホンコン・シャツ」を発売。
2(火)●労働省が離婚に関する調査結果を発表。三〇代が最多で、財産分与された妻は一八%。
3(水)●国鉄、世銀と八〇〇〇万ドルの借款契約に調印。
4(木)●樺太犬タロー、南極から四年半ぶり帰国。
5(金)●米、同国初の有人宇宙ロケット飛行に成功。
6(土)●日本文芸家協会、「国語を守る決議」を発表。
7(日)●九大教授が息子に入試問題漏洩し依願免官に。
8(月)●福岡県警、暴行などで保安監査官の炭鉱調査を妨害した鉱業代理人ら九人を逮捕。
9(火)●警視庁、ラジオ輸出検査めぐる贈収賄容疑で日本機械金属検査協会など三ヵ所を捜索。
10(水)●警察庁、交通事故の「示談屋」取締りを指示。
11(木)●大洋漁業、世界初の「エビ工船」船団をベーリング海に向け出航。輸出用缶詰生産など目的。
12(金)●ABC協会、初の新聞発行部数調査を開始。
13(土)●社会人野球協会、アマチュアリズム確立のため、今後はプロ退団者を受け入れないと決定。
14(日)●デパートの「純自然食品」が好評、と新聞に。
15(月)●静岡地裁、「足入れ婚」を強いられ出生児を死なせた女性に執行猶予つきの有罪判決。
16(火)●韓国で軍事クーデター(18日張勉内閣総辞職)。
17(水)●全国老人クラブ連絡協が第一回老人大会開催。
18(木)●日本観光旅館連盟が「女中」に代わる呼び名を公募し「接待さん」に決定、と新聞に。
19(金)●ビル一階に郵便受け設置など改正郵便法成立。
20(土)●日本演劇学会、歌舞伎低俗化の傾向は文化遺産の自滅と、国への保護要請を決定。
21(日)●日ソ漁業交渉妥結、漁獲量は六五〇〇〇トン。
22(月)●広島県警、北朝鮮への密輸グループを逮捕。
23(火)●神奈川県警、福島県の女性二二四人を熱海などの芸者置屋に斡旋した五人を逮捕。
24(水)●前年の漁獲量は六一九万トンで世界一と農林省。
25(木)●高岡市伏木港と新湊市新湊港で、日本初のマイクロ波無線標識(コースビーコン)が開局。
26(金)●アジア生産性機構(APO)発足(本部・東京)。
27(土)●北京で、日本の中国殉難者名簿奉持代表団(団長・大谷瑩潤参院議員)の歓迎集会を開催。
28(日)●愛知用水の水源となる牧尾ダムの完工式挙行。
29(月)●東京で七〇ヵ国の代表が参加し、国際ロータリー大会開幕。同会初のアジアでの大会。
30(火)●高教組、希望者「全入」推進など運動方針決定。
31(水)●南ア連邦、英連邦から離脱(南ア共和国に)。

20世紀博物館

大名時計博物館

高級和時計に生活とともにあった時間〝哲学〟を見る

東京・台東区

桑原茂夫

◀大名時計の風格がある「台時計」。中央につける重り（手前に並んでいる）が動力源になる。文字盤周辺も贅沢にできていて、上部に天秤が見える。

なりは小さいが、情報が濃密に詰まった博物館だ。江戸時代の和時計をコレクションした人が、和時計のすごさを知ってもらおうと、私設の博物館にしたというだけあって、館内の説明書きにも念が入っている。館を出る頃には、いっぱしの和時計通になっているはずだ。

ところで、江戸時代に用いられていた和時計には、今の時計からは失われた時間哲学と、西洋時計にはない絶妙のメカニズムがある。

時間哲学といっても、しち面倒くさい話ではない。和時計の基本は、まず一日を昼間と夜とに分けるところにある。夜明けから日暮れまでを昼間とし、日暮れから夜明けまでを夜として、それぞれを六等分して、時刻の単位とした。人々の生活実感に即した〝時刻作り〟をめざしたのだ。

たとえば、今なら夏と冬とで、日暮れの時刻と夜明けの時刻は大違いということになるが、当時はどの季節でも、どの地方でも、日暮れは〝暮れ六つ〟夜明けは〝明け六つ〟だったのだ。

「お江戸日本橋七ツ立ち……」と聞けば、夏だろうが冬だろうが、夜明け前のまだ薄暗い時分のこと。実にストレートな感覚的時間表現だったのである。

しかしそうすると、時間の流れは一定にならない。比喩的に言うと、冬は昼が短くて夜が長いから、昼の時計が〝コチコチ〟と進むとすると、夜の時計は〝コーチコーチ〟とゆっくり進まなければならないことになる。

これでは、時計は成り立たないように思える。しかし和時計は、昼と夜とで違う時間の流れを、ひとつの時計で表現しようとしたのだ。

この博物館に展示されている和時計の多くは、上部にやじろべえのような〝天秤〟を見せているが、この天秤の回転運動が時計の進み具合を決めるので、その速度を昼夜で変える方法が考えられたのである。しかも自動的に切り替えるという画期的な方法であった。

進み方が違う二つの時計を内蔵し、夜明けと日暮れの境目の時刻に自動的に切り替える、こんな絶妙のメカニズムを持った時計が作り出されたのである。

「大名時計」という名称は、このような和時計のコレクターで、この博物館の基礎を作った、上口愚朗という陶芸家が昭和一二年に名づけたそうだが、その理由は単純明快で、和時計が最高の技術を駆使して作られたものだからだ。

たしかに側板（時計ケース）や文字盤にほどこされた、美術工芸品としての高度な仕上がりは、半端なものではない。

しかし、ただたんに、大名の見栄を満足させるために贅をつくしたものとも思えない。そこには、高度な器械技術と、それによって生み出された自動装置への畏敬の念と、宝物のようにそれをいつくしむ思いが、こめられているように思う。

この、わずか六〇平方メートルたらずの小さな博物館は、自然と人間と技術の関係を、濃厚に感じさせる空間なのであった。

▲櫓型の和時計。文字盤の背後に歯車が見えるが、木製で、歯は竹を差しこんで固めたもの。

▶小型の日時計。携帯用の時計で、江戸時代はこれで十分用がたりた。

▲「勝山藩下屋敷跡」と記された碑が立っている博物館入り口。この園の一角に博物館がある。

●大名時計博物館

東京都台東区谷中二―一―二七

☎〇三―三八二一―六九一三

地下鉄千代田線根津駅下車、徒歩八分

開館時間＝一〇時～一六時

休館日＝月曜日、夏期（七～九月）、年末年始

◀アベベ、大阪を走る（6月25日）大阪の毎日マラソンでローマ五輪優勝のアベベが終始独走し優勝。しかし、大勢の人や車にはばまれ、2時間29分27秒と記録は平凡だった。

▲梅雨前線大暴れ（6月24日）7月5日まで全国各地で崖崩れ、河川の氾濫などで死者・行方不明は357人にものぼった。写真は橋が破壊された長野県飯田市の惨状。

▼東大寺に赤旗が（6月20日）文化財の修復・保存を仕事とする奈良県の宮大工らが組合を結成。県教育委員会に身分保障と賃上げを要求し、東大寺境内で集会、24時間ストに突入した。

◀ケネディとフルシチョフ、ウィーンで会談（6月3日）緊張緩和の期待を背負う米ソ首脳が翌日まで2日間、ラオス問題や核実験停止などを討議。フルシチョフの強硬姿勢が目立った。

▲愛媛県南西部でネズミが異常繁殖（6月12日）県宇和島地方事務所は、ネコ1万匹供出運動を市町村に呼びかけた。宇和島のネズミ退治船で到着したネコたち（写真）は、ネズミにおびえて効果はなかった。

昭和36年6月

1（木）●よっぱらい防止法公布（7月1日施行）。

2（金）●国会周辺で三万五〇〇〇人が政防法反対デモ。

3（土）●自民・民社両党、衆院で政治的暴力行為防止法（政防法）案を強行可決（18日継続審議）。
●ケネディとフルシチョフがウィーンで会談。

4（日）●日本テレビ「シャボン玉ホリデー」放映開始。

5（月）●食中毒急増で厚生省が電気冷蔵庫過信を警告。

6（火）●日航の北まわり欧州線一番機「鎌倉」が出発。
●ソニー、米で日本初の株式海外公募契約調印。

7（水）●大阪アルミ、国産初のホバークラフトを公開。

8（木）●東京の文化服装学院の寮で発生した集団赤痢患者が三七〇人、保菌者が一六〇人に。

9（金）●防衛庁、戦後初の国産潜水艦「おやしお」公開。

10（土）●日本青団協と地婦連、ヒューマニズムに根ざした原水禁運動を原水協に要望する声明発表。

11（日）●東京築地中央市場と神田青果市場が日曜休業。

12（月）●本田技研、英のオートレースで二クラス制覇。

13（火）●応募減り陸自は二個師団以上の欠員と新聞に。

14（水）●東京都、都バス・都電など一斉値上げを決定。

15（木）●原燃公社、岡山県人形峠でウラン鉱床を発見。

16（金）●農家では世帯主の離農も増加と農林省調査。

17（土）●第一回宇宙生物学・宇宙医学シンポを開催。

18（日）●ラオス三派会議、連合政権樹立で合意。

19（月）●日本生命、日本初のプロデューサー・システムで運営する「日生劇場」の設立を決定。

20（火）●住宅公団、団地内の修理、託児所設置などを行う株式会社、団地サービスを設立。

21（水）●IOC総会、東京オリンピックで柔道とバレーボールを正式種目に採用と決定。
●厚生省、ソ連・カナダからの小児麻痺用の生ワクチン一三〇〇万人分の緊急輸入を決定。

22（木）●池田首相とケネディ米大統領、共同声明発表。

23（金）●大蔵省・日銀、五月の外為収支を発表。経常収支は一億三〇〇〇万ドルの赤字で戦後最大。

24（土）●本州・九州各地に豪雨（36年6月豪雨）。

25（日）●全日本学生自動車連盟、創立一〇周年記念の日本一周学生ラリーを開催（～7月16日）。

26（月）●通産省、地方分散の工業適正配置構想を発表。

27（火）●防衛庁、精神教育用『自衛官の心がまえ』発表。

28（水）●東大西アジア洪積世人類遺跡調査団、エルサレム近郊でネアンデルタール人の骨を発見。

29（木）●ILO総会、週四〇時間労働案を否決。

30（金）●トヨタ、大衆車「パブリカ」発売。価格は三八万九〇〇〇円で長期ローンを採用。

ベストセラー

『英語に強くなる本』でカッパが見抜いた時代変化

この年のベストセラー・リストを見ると歴然としているが、光文社の「カッパ・ブックス」が圧倒的に読まれていた。

なかでも岩田一男の『英語に強くなる本』は、英語に対する考え方を、学校英語的な発想から根本的に変えようという意欲にあふれていて、読者の共感を呼び、たちまちミリオンセラーになった。

本を開くといきなり、トイレに入っている時、ドアを叩かれたら何と答えるかという質問が投げかけられる。いつ起きてもおかしくない状況で、学校英語では答えが見つからない。そこで著者は答えるのだ。"Someone in." と。

ドア越しだし「私」と言ったって無意味だから「誰か」が入っているというわけで、このような例をたくさんあげ、英語による言葉遊びのような面白さを読者に味わわせ、しかも"これならできそうだ"という気持ちを起こさせた。

この本で紹介された、トイレに行きたい時の遠まわしな表現"Nature calls me."は、大いにはやって、そのまま使われたりもしたほどである。

この本は、東京オリンピックの開催が近づき、国際化のかけ声も聞こえ始めた時代を感じさせるベストセラーだったが、本の趣は違うものの、小田実の『何でも見てやろう』も、外国に対する意識をがらりと変える、若者らしい新鮮な感覚にあふれた本で、この時代ならではのベストセラーだった。

『英語に強くなる本』と同じ「カッパ・ブックス」の『記憶術』も売れた。記憶力を強くするポイントは、意欲と興味にあるとした、積極性に富んだ内容で、考えてみれば、ずいぶん健康的な時代だったと言えるのかもしれない。

●昭和36年のベストセラー

順位	書名(著者/出版社)
1位	『英語に強くなる本』(岩田一男/光文社)
2位	『記憶術』(南博/光文社)
3位	『性生活の知恵』(謝国権/池田書店)
4位	『頭のよくなる本』(林髞/光文社)
5位	『砂の器』(松本清張/光文社)
6位	『影の地帯』(松本清張/光文社)
7位	『何でも見てやろう』(小田実/河出書房新社)
8位	『日本経済入門』(長洲一二/光文社)
9位	『日本の会社』(坂本藤良/光文社)
10位	『虚名の鎖』(水上勉/光文社)

全国出版協会出版科学研究所

▲『英語に強くなる本』(200円)

▲『何でも見てやろう』(290円)

▲『記憶術』(160円)

スターと名場面

TV時代到来前夜の名作「用心棒」と「人間の條件」

映画にとっては、その観客動員数も製作本数も、前年までにピークを打ち、いよいよ娯楽の王者としての存在にかげりを見せ始めた年だった。

とはいえ、作品そのものは、衰退するどころか、ますますその質を高めていった。黒澤明監督、三船敏郎主演の「用心棒」は、時代劇というフィクションの中で、観客をいつの間にか、主役の一匹狼の男と同じ側に立たせてしまう絶妙のストーリー展開といい、隅々にまで映像効果を計算しつくした場面構成といい、映画の奥深さを感じさせる名作だった。

また、反戦の意志をきれいごとでなく描ききった「人間の條件」は、小林正樹監督の乾坤一擲、九時間を超える大長編だったが、モノクロームの画面の美しさを堪能させてくれる映画でもあった(撮影・宮島義勇)。「用心棒」もそうだった(撮影・宮川一夫)が、撮影技術もます洗練されてきたのである。

ほかには次のような映画が話題になった。かっこ内はおもな出演者。

「豚と軍艦」(長門裕之、吉村実子)「あいつと私」(石原裕次郎、芦川いづみ)「悪名」(勝新太郎、田宮二郎)「不良少年」(山田幸男)「ウエスト・サイド物語」(ナタリー・ウッド、ジョージ・チャキリス)

一方、映画とは逆に娯楽の王者の座を目前にしたテレビでは、歌手にもタレント的要素が求められるようになっていた。そこへ登場したのが坂本九で、たちまち"お茶の間の人気者"になった。この年のヒット曲「上を向いて歩こう」が世界的な大ヒット(世界中で一〇〇〇万枚をゆうに超えた)になるとは、この時点では誰にも想像できなかった。

松竹提供

▲過酷な環境の中で生き延びる主人公・梶を仲代達矢が熱演した「人間の條件」。

東宝提供

▲「用心棒」は、イタリアで洋風にリメイクされ(「荒野の用心棒」)、これもヒットした。

モノ語り'61

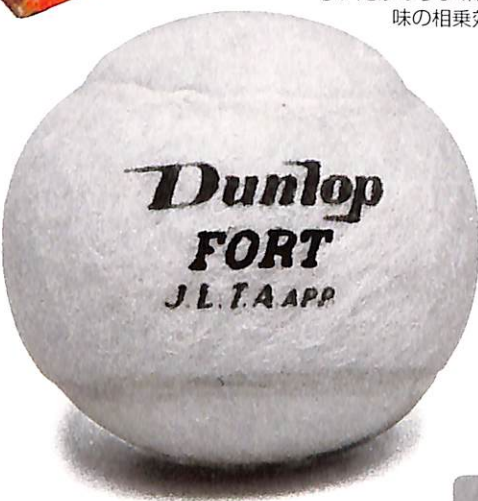
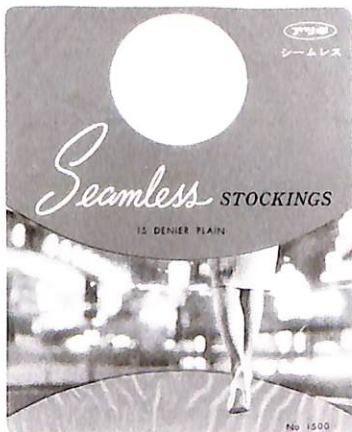
溶けやすい顆粒状の「いの一番」から溶けにくい「マーブルチョコ」まで工夫の数々

◀**マニアも喜んだセパレート方式のステレオ**　5月に"音質本位の組み合わせ式"をうたった「ステレオコンポーネントST-800型」が、トリオ(現・ケンウッド)から発売された。当時国内最高を誇った最大14ワットの大出力アンプを備え、スピーカーシステムも充実、徹底的によい音を追求した。11万9000円という価格にふさわしい音が実現した。

▼**キャラクターとともに売れたチョコレート**　明治製菓が2月に発売した「マーブルチョコレート」(1箱30円)は、子どもたちが手にしても、その体温で溶けないように工夫されていた。7色の糖衣がけは、見た目の楽しさとともに、溶けにくくする意味もあった。翌年3月からはテレビのコマーシャルなどで、当時5歳の上原ゆかりが"マーブルちゃん"として登場、人気を呼んだ。

◀**クリープのないコーヒーなんて**　森永製菓が初めて製品化した「インスタントコーヒー」の後を受け"コーヒー・紅茶を薄めずさまさず"のキャッチフレーズで、森永乳業が4月に発売した粉末インスタントクリームが「クリープ」(90グラム100円)。森永乳業では、食糧難だった終戦直後から粉末クリームの開発を進めており、昭和29年には製法特許の申請もしていたという。その技術がインスタントクリームという形で生かされたわけである。

▼**うま味はUMAMIに**　今では辛味や甘味などと同様の味として、国際的にも認められている"うま味"の調味料「いの一番」は、この年、武田薬品(現在の発売元は武田食品工業)から発売され、米穀店などを通じて各家庭に定着していった。昆布や、かつお節、しいたけのうま味成分を、水に溶けやすい顆粒状にして、うま味の相乗効果をねらった。30グラム袋入り180円。

▼**肌を「守る」から「焼く」へ**　資生堂の「サンオイル」が登場し(400円)、それまでの、サンスクリーン剤で肌を日差しから"守る"から、肌を太陽にさらして積極的に"焼く"へ、女性の意識を大きく変化させていった。アウトドアのレジャーがさかんになったことと相まって、日焼けがファッションになり、これにともない褐色の肌にあう洋服や、ビーチでのおしゃれにも関心が持たれるようになった。

▲**パンクしない硬式テニスボール**　硬式テニスがブームになりつつあった時代に、国産の丈夫な硬式テニスボールが生まれた。日本ダンロップ護謨(現・住友ゴム工業)の「ダンロップ・フォート」で、フェルトカバーの下にあるゴムの貼り合わせ方を変えることで、何よりもプレー中のパンクを少なくし、丈夫にすることができた。価格は1ダース2700円と、まだ比較的高価なものだった。

◀**逆輸入で売れたシームレスストッキング**　ストッキングにはシームのあるのが当たり前の時代に、どう見てもシームは美しくないと考えた厚木編織(現・厚木ナイロン工業)のトップが全力をあげて開発したのが「シームレスストッキング」で、昭和27年のことだった。ところがその当時は日本でまったく売れず、輸出先の欧米諸国で爆発的ヒット。やがてブームは日本にも上陸、あっという間にシーム入りストッキングを駆逐してしまった。1足400円だった。

人物クローズアップ

大鵬幸喜（二二）

入幕してから一年九ヵ月弱！ 柏戸と同時昇進で〝大横綱〟へ

昭和三六年の秋場所が終わってまもない九月二七日、大関の大鵬（二一）は、同じく大関の柏戸（二二）とともに横綱に推挙された。

九月二四日に千秋楽を迎えた秋場所は、大鵬・柏戸・明武谷による優勝決定戦のすえ、大鵬が前場所に続いて連続優勝をとげた。大鵬の横綱昇進は問題なかったが、準優勝の柏戸も実力は互角であるとの理由で、同時昇進となった。その時のことを現・大鵬親方は「同時に横綱になれて、とにかく嬉しかった」と語る。

大鵬は、本名が納谷幸喜。昭和一五年五月二九日、旧樺太の敷香郡敷香町（現・サハリン州ポロナイスク）に生まれ、北海道川上郡弟子屈町跡佐登で育った。

初土俵は昭和三一年の秋場所。早くからその素質を見こまれ、順調に出世街道をかけ登る。十両になったのは三四年名古屋場所で、同時に四股名も「納谷」から、中国の古書『荘子』にある想像上の大鳥である「大鵬」に改められた。

三五年初場所、新入幕の大鵬は、初日から快進撃を続けた。一一日目まで負けなしの一一連勝。ほかに連勝を続けている力士は横綱栃錦ただ一人である。そして一二日目、大鵬はこれも角界期待の星、小結柏戸と対戦することになった。この一戦は、結局、柏戸の勝利に終わったが、以降この二人の取組は大相撲の看板カードとなり、いわゆる〝柏鵬時代〟の幕開けとなったのである。

大鵬の人気はすさまじかった。特に女性の間で人気が高く、ブロマイドの売れ行きは入幕時からうなぎのぼりで、国技館の売店で、日に五〇枚がアッという間に売れた。女性からのファンレターが殺到し、大鵬の取組時間になると、女湯がカラになるという事態が出現した。端正で色白な甘いマスク。大鵬の行くところ、まわりには女性ファンが群がった。

子どもの人気もすごかった。子どもは強くてカッコイイものが大好きである。子どもの好きなものを称して「巨人・大鵬・卵焼き」と言う流行語も生まれた。

新入幕以降の大鵬を追ってみると、三五年九州場所、関脇大鵬は初優勝をとげ大関に昇進。翌三六年、名古屋場所で二度目の優勝をはたし、そして、次の秋場所にも優勝して、史上最も若い二一歳四ヵ月で角界の頂点をきわめたのである。

柏鵬時代と言われながら、ライバルの柏戸はケガと糖尿病に泣き、優勝回数は五回にとどまった。一方、引退する昭和四六年夏場所まで、大鵬の優勝回数は、前人未到の三二回を数える。

その偉業に対して大鵬親方は、「それは柏戸さんがいたからできたこと。柏戸さんには負けたくない、と思って稽古したからです」と今も語るのである。

▲大鵬の綱は、重さ約12キロ。先代若乃花のものよりやや太目。化粧回しは大阪の製鋼会社から名古屋場所直後に贈られていて、すでに用意ずみだった。 栗原達男

▼昭和36年秋場所の優勝決定戦で、柏戸の猛攻をしのぎ、うっちゃりで大鵬の勝ち。

栗原達男「アサヒグラフ」

決定的瞬間

初の亡命東独兵士の〝自由〟への跳躍がベルリンの壁を生んだ

一九歳の国境警備兵、コンラート・シューマンは、腰の高さまである鉄条網の〝壁〟を用心深く押し下げ、好機をねらっていた。

「逃げるなら今しかない。コンクリートの壁になってからじゃ、遅すぎるんだ」

鉄条網の反対側で、カメラマンのペーター・ライビングが、奇妙な行動をとる兵士の〝決定的瞬間〟をねらって東西ベルリンの境界線にレンズを向けていた。

一九六一年八月、「最初に亡命した東ドイツ兵士」の写真が世界を駆けめぐる。

〝壁〟が一夜にして現れたのは八月一三日。第二次大戦後、戦勝四ヵ国が分割統治していたベルリンは、この瞬間から冷戦のシンボルと化した。

「東ドイツが壁を作ったのは、当時、ベルリン経由の亡命者数が毎日のように塗り替えられ、新記録(毎年二〇万人以上。国民の九人に一人)が続出していたことに危機感を抱いたからです。さらに深刻だったのは、社会主義が自由主義に対して失ったメンツ。自由主義世界への逃亡は、事実上の〝足で行う住民投票〟だったわけですから」と大阪大学の三島憲一教授は当時の状況を解説する。

一方、西側諸国にとっても、西ベルリンは、コミュニズムを食い止める防波堤の役割をはたしていた。だからこそ、東ドイツの中で孤島のように存在する西ベルリンに巨額の援助を約束し、〝自由主義のショーウィンドー〟としたのである。その後、〝壁〟は四半世紀にわたって存在し続けた——。

シューマンが〝壁〟を飛び越えてから二八年後の一九八九年一一月九日、同じ場所に再び世界の目が集まった。冷戦終結のシンボルとして熱狂的な報道で迎えられた「ベルリンの壁」の崩壊である。今にしてみれば、壁崩壊は、〝統一後遺症〟の始まりにすぎなかったのである。

かつて、〝ソ連・東欧諸国の優等生〟と言われた東ドイツの実態は、蓋を開けてみれば、あまりにも脆(もろ)いものだった。生産性の低い東側企業の多くは、自由競争という突風にさらされ倒産。情け容赦(ようしゃ)のない資本主義の中で生きるむずかしさが、東側住民の〝敗北感〟に拍車をかけていた。それと同時に、西側でも、復興資金として毎年東側に投入する約一五〇〇億(マルク)の重い負担で、住民の不満が膨張していたのである。

「壁の〝後遺症〟は経済的な問題だけではありません。西側住民は、分断がもたらした繁栄に慣れ、安住していた。おそらく、熱狂的な報道を最もさめた目で見ていたのは、西ドイツ人でしょう。この結果、今、西と東の住民の間で感情的対立が疼(うず)いています。たとえば、不動産をめぐるトラブル。西への逃亡前に東側に持っていた土地を取り戻したい西側住民と、所有の概念を持たずに住み続ける東側住民との間で、争いが起きています」と西側に住むあるドイツ人教授は言う。

シューマンの飛び越えた壁が消滅したことで生まれた西ドイツ人の〝心の壁〟は、皮肉にも、冷戦構造の後遺症として統一ドイツの新たな〝壁〟になっている。

▲1961年8月、東独国境警備兵、シューマンが、有刺鉄線を飛び越えて西ドイツに亡命した。後に彼は「ほんの一瞬でした——3〜4秒のことだ」と語った。 ペーター・ライビング PPS

美の出会い

「トリスを飲んでハワイへ行こう」作家・山口瞳が生みの親！人気者アンクルトリスの名コピー

昭和三六年頃、商品の懸賞販売は異常なほどに過熱・大型化していた。賞品には八〇〇万円の土地から文化住宅まで登場。ロッテ・チューインガムで特賞の一〇〇〇万円に当選した静岡の家庭には、自動車のセールスマンや銀行員が押しかけ、ひと騒動が起こったほどである。

こうした中、九月一日から一二月一〇日まで、洋酒の寿屋（現・サントリー）は、懸賞広告「トリスを飲んでハワイへ行こう」（コピー、山口瞳）を新聞や自社PR誌「洋酒天国」、ポスターで展開し、大評判となった。「レジャーブーム」という言葉が流行した年だが、レジャーの行き先は国内に限られていた。

当時、寿屋宣伝部のイラストレーターだった柳原良平は、回想する。

「安酒しか飲めなかった連中が、トリスでハイボールというハイカラな酒を飲めるようになり、ヒットしましたね。その上、まだ海外旅行が自由にできなかった当時、一本三三〇円のトリスを買うと二枚の抽選券がついてきた。あたればハワイに行けるということで、人々に大きな夢を与えました」

「あのころ」の多彩な人材

「あのころはよかった。あのころは仕事がやりやすかった。あのころは面白かった。あのころは、しかし、あまりにも金がなかった」（『トリスの広告25年史』サン・アド発行）

後に山口瞳が懐かしさをこめて書いた「あのころ」、つまりこの年の前後、寿屋宣伝部には、山口瞳言うところの日本一のコピーライター・開高健、正義感のかたまりのイラストレーター・柳原良平、万能の天才・坂根進らがいた。無名の人材を集め宣伝部門作りをした山崎隆夫、そして彼らの奔放な仕事を支えたのが当時の社長・佐治敬三だった。

彼らはガムシャラに仕事をした。そして無茶苦茶に飲んだ。

「トリスの広告が優れていたとするならば、それは才能というものではなくて、このような社内の熱気のためだった」（同上）と山口瞳が言うように、そこには一人一人の身の丈からふりしぼられた知恵のぶつかり合いと信頼関係があった。

一世を風靡したトリスのキャラクター「アンクルトリス」は、昭和三〇年頃、開高健と同僚の酒井睦雄、柳原良平の三人で、コマーシャルに使う主人公の性格を話し合う中から生まれた。

「飲んベエなのは当然である。小心者だが思いきったこともする。少しエッチで女好きだが正義感が強い。あまり喜怒哀楽を表さないが神経は細やか」（柳原）というアンクルトリス像が決まり、その三〇分後には、柳原の手によりイラストができあがった。

その後、アンクルトリスはテレビコマーシャルの記念碑的作品といわれる「トリス・バーの巻」（開高案）、「浪曲西部劇」（山口案）などに次々と登場し、茶の間にほのぼのとした笑いを巻き起こした。開高健が芥川賞、山口瞳が直木賞を受賞し、小説家として独立した後も、永六輔、前田武彦らの協力により、アンクルトリスのコマーシャルは昭和四六年まで続けられた。

サントリー姉妹品
大瓶330円
ポケット瓶120円
デルクス500円
洋酒の寿屋
トリスを飲んでHawaiiへ行こう！
1等 ハワイ旅行積立預金証書 100名様
（為替自由化後実施）
残念賞 15,000円 400名様
1等組ちがい同番号
2等 トリスウイスタン 150万名様
抽せん券はトリス大瓶とデルクスに2枚ポケット瓶に1枚ついています
抽せん日12月下旬●当せん発表昭和37年1月上旬
（有名日刊新聞紙上）
トリスウイスキー

▲「トリスを飲んでハワイへ行こう」のポスター。ハワイ旅行があたるという、昭和36年9月から始まったキャンペーン用のもの。海外旅行はまだ夢の時代だった。

◀アンクルトリス人形。デザインは柳原良平。2頭身のキャラクターは、新聞・テレビ以外に置物、楊枝入れなどにも使われた。

サントリー提供

▼昭和31年から刊行されたPR誌「洋酒天国」（52号）の扉。作家、文化人を積極的に起用して好評だった。

Oh! Hawaii

「現場」を歩く

水島

"石油化学時代"を支えるコンビナートの企業と住民

山本徹美

▲操業中の水島コンビナートを東側から見る。中央の水域は水島港。　斎藤和欣

倉敷駅前でタクシーに乗る。江戸時代を想わせる蔵屋敷がつらなる「美観地区」を抜け、南へ車で約二〇分。峠を越えると紅白に塗り分けた煙突とシルバーメタリックに輝くプラント群が眼前に広がる。そこが水島コンビナートであった。

昭和三〇年七月、通産省は「石油化学工業の育成対策」を発表、民間企業に国際競争力をつけさせるための支援を表明した。これにより化学企業は、岩国・大竹（三井石化）、新居浜（住友化学）、四日市（三菱油化）、川崎（日本石化）などにナフサセンターを建設、稼働した。その後、政府は後続企業の参入をおさえていたが、エチレン需要の増大により、第二期計画を練る。

昭和三六年一一月一四日、通産省は三菱化成（現・三菱化学）、出光興産などの石油センター増設を認可。わが国産業界は本格的な石油化学時代に突入する。

すでに岡山県では昭和二八年以来、水島地区を臨海工業地帯として企業誘致すべく整備計画を進めていた。水島は高梁川によって形成された三角州と広大な干潟で、ここを工業用地にするためには港湾施設が必要だった。一説には、当時の大原総一郎倉敷紡績社長が、「港を掘った土砂を埋め立てに使い、その土地を企業に売れば、一石二鳥」と、時の三木行治県知事に提言したとも伝えられる。

共生の道を探る

水島コンビナートの中核をなす三菱化学水島事業所は三九年七月一日、完成した。当時からかかわってきた赤塚武平・製造一部エチレン課課長代理が回想する。

「道路整備が追いつかず、あちこち泥のぬかるみがあり、長靴が必需品でした。通勤バスの車内に蚊取り線香が吊るしてあるほど蚊が多くて、悩まされたものです」

水島事業所の操業は、ナフサ分解装置の試運転と同時に始まった。地上約四〇のフレアースタック（廃ガス燃焼用煙突）の先から、炎が二〇から時に五〇も勢いよく噴き出す。それを目のあたりにして、地元漁民約七〇〇人が、筵を幟に抗議に押しかける一幕もあった。

三菱化学水島事業所では地域住民との共存共栄の必要を痛感し地元祭礼行事に参加、あるいはイベントに招待するなど協調策をとった。

ある町会長が言う。

「コンビナートが来た当初は公害を心配するものも多かった。じゃが、国や県、市が条例など規制を厳しゅうしてからは、企業側が努力したこともあり、不安は薄れていった。地元にしたら働き口がふえたし、その関連で商売が成り立つ面もある。喜んでおる人の方が多いと思うよ」

現在、水島コンビナートに立地する企業は七六社。そのうち煤煙発生施設は約九〇〇。大気汚染に関しては二酸化窒素、二酸化硫黄ともに一八年前から国の環境基準に適合。水質汚染に関しても、対象四一事業所は昭和四〇年以降、環境基準値をクリアしている。

江戸と現代が共生している町並み同様企業と住民が折り合おうとしている。

朝日新聞社

▲建設中のコンビナートを昭和36年3月に撮影。石油タンクが建ち始め、水島港の浚渫が進む。

「40年間お待たせしました」アンネ発売が"常識"を変えた!

▲伊勢原市の商工祭に、アンネが参加。市内中心街に設けられた特設会場に商品を陳列し、サンプルと社名入り風船を配布した（アンネの社内報より）。　ライオン提供

一個の商品が世の中を変える。「アンネナプキン」もそのひとつだ。女性の生理を軽減し、職場や学校での行動を自由にしたばかりではない。生理を白日のもとにさらし、女性ゆえの「弱点」から「当たり前のもの」へと常識をくつがえし、女性の社会進出をサポートしたのである。

"生理革命"をめざした二七歳の主婦の開発力

昭和三六年一一月、一二個入り一〇〇円の「アンネナプキン」が発売された。

新聞広告では大々的に「四〇年間お待たせしました！」というキャッチコピーが使われた。「長い間待っていたものがやっと現れた」というイメージに、多くの女性たちが共感をおぼえた。

アンネナプキンは三六年七月、従業員一〇人による手作りで日産一五箱という微々たる量から生産を開始し、同年一〇月には増資、生産機械も購入して従業員数も二〇〇人にふえ、月産一五〇万箱にまで生産量を伸ばしていく。売り上げの伸びも三七年一〇億円、三八年一一億円と倍々にふえていった。

製品としての強さは、①綿とパルプを組み合わせたことで吸収力がよい②ナプキンを個別包装することで携帯に便利③いざとなれば水洗トイレに流せる、という三点に絞られる。製品の基本的なアイディアは創業者の坂井泰子（二七）が生み出し、技術陣が不眠不休で開発にのぞんだ。特に個別包装は女性ならではの繊細な心遣いを示していて、破れやすく音がしない包装紙の研究に心血を注いだ。

▲坂井泰子社長（写真中央）は、“アンネのイメージ”作りのため、積極的にマスコミを利用。写真はNETテレビの座談会「女のしあわせ」に出演した時のもの。 ライオン提供

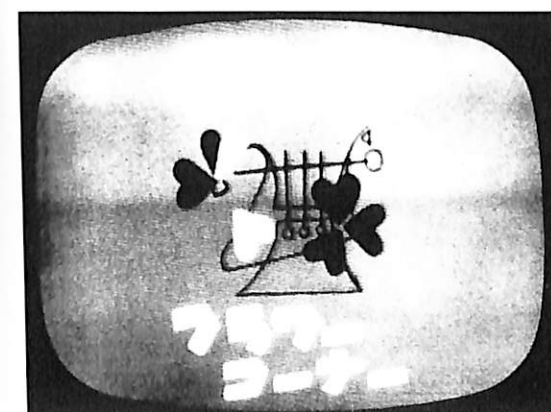
製品の強さとともに、創業者・坂井泰子の魅力も「アンネナプキン」の普及に一役買っている。彼女は昭和九年、東京の裕福な繊維卸商の家に三女として生まれ、日本女子大学を卒業。二二歳で商社勤務の坂井秀弥氏と結婚した。しかし主婦業には飽きたらず、昭和三五年銀座に「発明サービスセンター」を設立。彼女は持ちこまれるアイディアを観察しながら、新しい生理用品の開発に注目する。

「何とか社会に役立ちたい」と考える彼女のエネルギーが、新製品の開発、新会社の設立、スポンサーの獲得、と難問を解決し、みごと「アンネナプキン」の製品化に成功したのだから世間は注目した。若くて美しい企業家の誕生が週刊誌にもさかんに取り上げられ、「アンネ＝颯爽とした女性実業家」というイメージが、生理用品を明るい茶の間の世界に引っぱり出すことに大きく貢献した。

アンネ用品を求めても他社の製品を渡される

創業当時の若い会社には優秀な人材が集まり、三〇七人のモニター報告を雑誌に載せてアピールしたり、またモデルの頭の上にアンネの製品を配する奇抜な広告を作成したりもした。こうして、アンネの名前は全国に普及した。岐阜県の主婦から「私は生理の日を“アンネの日”と決めました」という一通の手紙が舞いこむ。宣伝部は、さっそくこの言葉を貰い、「“アンネの日”と決めました」という大キャンペーンを展開。昭和二八年に発売された『アンネの日記』の作者アンネ・フランクの名前は、極東の島国でみごとな変身を遂げたのである。

▼薬局以外に、化粧品店や荒物屋、雑貨店にも置かれた。

ライオン提供

▲左は、宝塚スターが登場するアンネの提供番組「フラワーコーナー」。右は関連商品「パンネット」のテレビスポット。

当時二七歳でアンネ株式会社のPR課に転職してきた加賀靖一郎氏（現・日本歯磨工業会専務理事）は、「数日おきに郵便局から大きな袋いっぱいの見本請求の手紙や現金書留が届くのです。アルバイトを常時一五人雇って処理したのですが、追いつきませんでした」と言う。

このアンネナプキンの成功を見て、脱脂綿業界や従来の生理帯業界は危機感を強めた。昭和四〇年代に入ると生理用ナプキンに参入した会社は三〇〇社にものぼる。アンネのテレビCMは昭和三九年から始めているが、日曜はダメ、食事時はダメと、さまざまな制約を受けた。

それでもアンネナプキンは浸透していった。ところが店に行って「アンネ用品をください」と言っても他社製品を渡される、という現象が起き始める。今、加賀氏は「固有名詞を一般名詞にしてしまったツケと言ったらいいか……」と苦笑いする。アンネ株式会社は、スーパーに販路を持つ有力メーカーに追われ、実質一〇年で幕を閉じた。しかし、「アンネの日＝生理日」という言葉が定着した事実は、この小さな製品が生理日を憂鬱だとする女性の気持ちを変え、世間の古い考え方に風穴を開ける画期的なものであったことをものがたっている。

40年間お待たせしました！

女性だけの毎月のわずらわしさとも
いよいよ今年からお別れ
団地の生活がグンと快適です！
新発売〈アンネナプキン〉
姉妹品〈パンネット〉を
ぜひ一度お試しください
使用感ゼロ！　といいたいほどの
さわやかさ
奥さまのお仕事もはかどる
思わず口笛だって吹きたくなります
もちろん水洗OK　インスタントタイプ
ご使用後のムダな手数をはぶきます
縦に吸収する脱脂綿で、吸収して横に
広がるパルプ紙綿と強力防水紙を包んだ
独特のナプキンタイプは
すばらしい吸収力で評判です

●スタイルに影響しないコンパクト形（薄形）●お出かけやお勤めに便利で衛生的な一回分ずつポリエチ包装●強力防水紙の働きで失敗がありません●すべての水洗トイレにOK…

＊〈アンネ〉は、これまでの紙製品のようにテックスとパッドを併用する必要がありません。2つの機能を1つにまとめたニュータイプです。おしゃれなパンティ〈パンネット〉とあわせてお使いください。軽快さに、きっとご満足いただけるでしょう。

日本住宅公団の団地サービス社指定品

新発売

12ピース 100円

ニュータイプの生理用品

アンネナプキン

姉妹品 新しい生理用PANTY

パンネット

定価150円

＊くわしい説明書をさしあげます。お…カキください。（年令・職業記入）

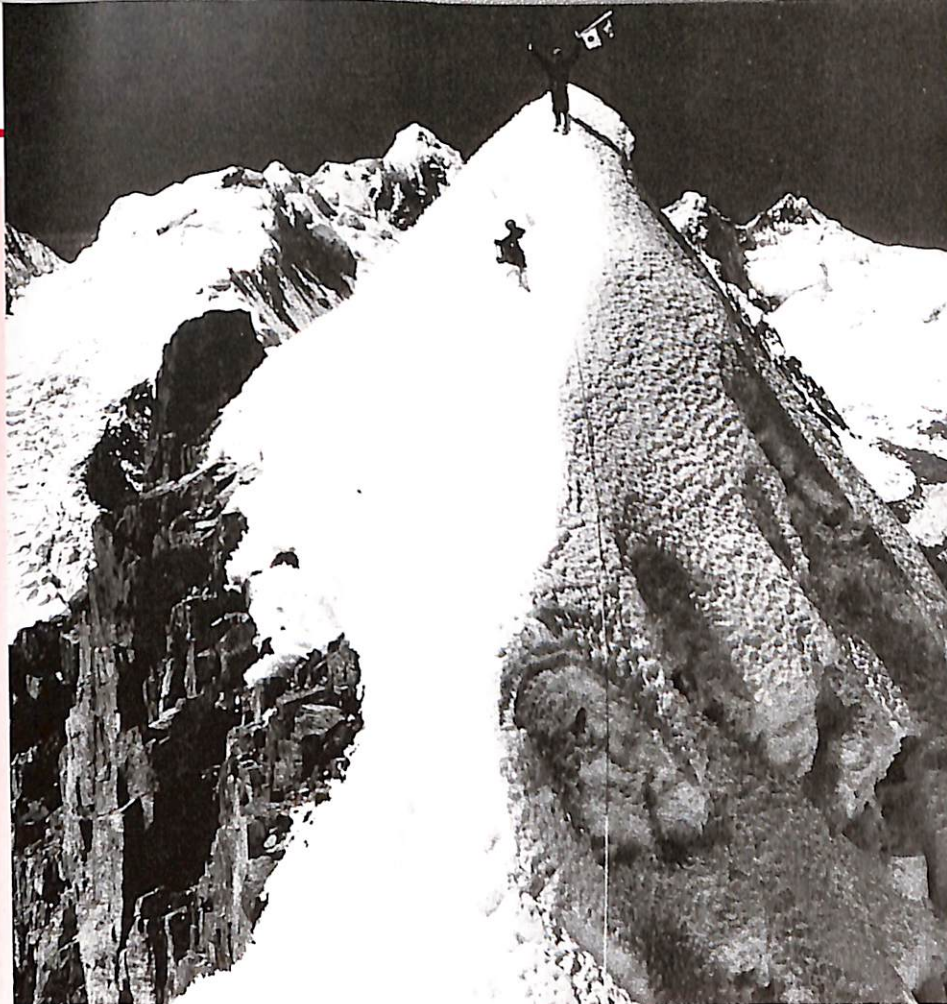
アンネ株式会社PR課（キー係）　東京都中央区銀座8の6

▲生理用品の品質改良や大々的な宣伝はナンセンスと思われていた時代、全国紙に全ページ広告を掲載。生理につきまとうイメージを一新した。

フォト+日録で再現する365日

共同通信社

▲最古のチンチン電車が引退(7月31日)明治28年から66年間走り続けた京都市電北野線が、経営合理化のためこの日廃線。お別れパレードに名残を惜しむ多数の市民が詰めかけた。

▼若戸大橋つながる(7月15日)渡し船で連絡していた北九州の工業地帯、若松—戸畑市間を道路でつなぐ夢の吊り橋。この日、白木戸畑市長らが工事用吊り橋を渡り初め。大橋は翌年9月26日に開通した。

朝日新聞社

▼チャップリン来日(7月18日)25年ぶり、4度目。家族連れで9日間、日光、京都などを訪れた。19日、歌舞伎座で「赤い陣羽織」を観劇後、中村勘三郎と握手(写真)。

▲ペルー・アンデス制覇(7月30日)6月に関学大の遠征隊がワスカランに初登頂。同隊はこの日5885メートルの無名峰も征服(写真)し、ビクトール峰と命名した。

▼北陸トンネル貫通(7月31日)十河信二国鉄総裁が最後の岩盤を爆破、着工以来3年8ヵ月目で福井県敦賀市と、今庄町の1万3869メートルがトンネルで接続した。翌年6月10日に、北陸本線の一番列車が走った。

毎日新聞社

共同通信社

朝日新聞社

昭和36年7月

1(土)●大豆、インスタントコーヒーなど輸入自由化。

2(日)●大阪・御堂筋のビルで爆発事故。一七人重軽傷。

3(月)●朴正熙、韓国国家再建最高会議議長に就任。

4(火)●外資審議会、日立造船とスイスとの水中翼船の技術提携を認可。水中翼船の大型化へ。

5(水)●大蔵省と銀行が企業融資の削減を申し合わせ。

6(木)●日独労相会談で、日本人炭鉱離職者一五〇〇人を西独の炭鉱に派遣で合意。

7(金)●首都圏整備委、都電撤去を三七年からと決定。

8(土)●入院料一八%、初診料一二%の医療費値上げ。
●加山雄三の若大将シリーズ第一作、「大学の若大将」封切。

9(日)●大村収容所、不法入国韓国人の集団送還再開。

10(月)●新島の試射場反対派オルグ団と警官隊が衝突。

11(火)●都民の平均所得は全国平均の二倍と東京都。

12(水)●新宿区が初めて開いた美容体操講習会が好評で、受講生らが「新宿区美容体操の会」を結成。

13(木)●兵庫県警、警察初の潜水隊の公開訓練を実施。

14(金)●電波管理審議会、テレビ増設計画の追加割当に中京テレビなど五局の予備免許を認可。

15(土)●自民党の資金調達機関「国民協会」が発足。

16(日)●警視庁、「かみなり族」取締りで三〇一件送検。

17(月)●小田原市の私立旭丘高で、全校生徒が理事らの退陣を要求し同盟休校に入る(~19日)。

18(火)●国防会議、第二次防衛力整備計画を決定。

19(水)●最高裁、絞首刑の執行方法を合憲と判示。

20(木)●ソ連・カナダ製小児麻痺ワクチンの投与開始。
●昆虫採集を夏休みの宿題として一律に課さないよう都教委が指示、と新聞に。

21(金)●坂本九「上を向いて歩こう」が中村八大のリサイタルで発表される。

22(土)●日銀、公定歩合を一厘引き上げ一銭九厘に。

23(日)●新藤兼人監督「裸の島」、モスクワ国際映画祭でグランプリを獲得。

24(月)●三六年上半期の鉄鋼生産が英抜き四位と判明。

25(火)●京都で世界宗教者平和会議開催(~28日)。

26(水)●上野署、模造の輸入ピストルを販売停止。

27(木)●「松川(事件)被告無罪判決要求大行進」が出発。

28(金)●閣議、公式制度連絡調査会議の設置を決定。元号・国旗・国歌などの法制化をめざす。

29(土)●田中自民党政調会長、武見太郎日本医師会会長に保険医総辞退の中止を要請(31日中止)。

30(日)●小鳴門海峡に小鳴門橋が完成し開通式挙行。

31(月)●日本初の電車線、京都市電の北野線が廃止。

証言・あの日この日

山下 清(39)

6月9日(金)〈いよいよヨーロッパにでかける朝がきたので、なにかすることがないかと思ったが、とくべつ考えつくことがないので、ぼくはヨーロッパへいくのははじめてだから、知らないところのことを考えてもむだなので、なんにもしないでじっと待っていることにした〉(山下清『ヨーロッパぶらりぶらり』)

日本航空の北まわりヨーロッパ線一番機「鎌倉」が羽田に就航して間もなく、山下清は機中の人となる。普段に増してわからないことだらけだ。スチュワーデスに向かって突然、「おばさん、この飛行機はジェット機で、ジェット機はふつうの飛行機よりずっと早いので、ときどきかじを下にむけないと、地球のそとにとびだしやしませんか」と尋ね、まわりの人を驚かせる。そして小便が我慢できず非常口のドアに手をかける。(坪内祐三)

朝日新聞社

◀松川事件、全員無罪(8月8日)24年に起きた事件の被告17人の差し戻し審で、仙台高裁は無罪の判決を下した。写真は支援者を前に喜ぶ被告たち。検察は再上告するが63年に無罪が確定した。

▼「怪童」尾崎、浪商に15年ぶりの栄冠もたらす(8月20日)近畿勢同士の対決となった夏の高校野球決勝戦で桐蔭に1対0で勝った。尾崎投手は相手打線を散発3安打におさえる力投だった。

WWP

朝日新聞社

▼釜ケ崎で暴動(8月1日)大阪市西成区で労働者が車にはねられ死亡。警察の処理に付近の住民や労働者が抗議、派出所への投石などの騒ぎとなった。機動隊が装甲車と催涙ガスを投入して鎮圧する4日まで続いた。

▶ベルリンに「東西の壁」(8月13日)市民の亡命が相次ぐため、東独政府は東西の境界に45キロにわたる鉄条網を張り、東西をつなぐ道路を封鎖、市民の往来を完全に禁じた。写真はブランデンブルク門。

▼シベリア遺族墓参団、初めて現地へ(8月15日)ハバロフスク、チタ両市の日本人墓地の訪問が実現した。16日には、一行30人がハバロフスクの墓地で追悼式を行った。

読売新聞社

読売新聞社

昭和36年8月

1(火)●大阪・釜ケ崎で、警察の交通事故処理に抗議の住民二〇〇〇人が投石と放火(4日まで続く)。

2(水)●大地震被害は江東区に集中と東京消防庁予測。

3(木)●日印円借款協定交渉が始まる(18日調印)。

4(金)●警察庁長官、暴力団広域化に対処強化を指示。

5(土)●ソ連、領海侵犯の疑いで七月一九日に拿捕した「第十漁栄丸」と漁船員二〇人を釈放。

6(日)●信濃川が豪雨で氾濫。二万五千余戸が被災。

7(月)●岩手・安家洞学術探検隊が安家洞の探検開始(~13日。日本最長の鍾乳洞と判明)。

8(火)●仙台高裁、松川事件差し戻し審で全員無罪。

9(水)●新日本窒素水俣工場で爆発事故。三人死亡。

10(木)●大阪で酒造組合が合成酒粉砕大会を開催。

11(金)●郵政省、新設の広島テレビに予備免許を付与。

12(土)●都経済局、米穀店の「強化米」強制販売に警告。

13(日)●東独、亡命防止のため「ベルリンの壁」構築。

14(月)●原水禁世界大会閉幕。総評など四団体、原水協執行部不信任と政治的偏向の改善を要求。

15(火)●初のシベリア墓参遺族団が羽田を出発。
●東京で初のソ連商工業見本市(~9月4日)。

16(水)●日本電気など七社が共同出資し、日本電子計算機(国産の電子計算機賃貸会社)を設立。

17(木)●東京上野署、「睡眠薬遊び」に使われる睡眠薬を売っていた四薬局の経営者を書類送検。

18(金)●人事院、『不正者の天国』を著述した総理府事務官の免職処分を承認。

19(土)●岐阜県北部を中心にM七・〇の地震(北美濃地震)。八人死亡、家屋全壊が一二戸。

20(日)●大阪市西成区で暴力団抗争。双方の組長死亡。

21(月)●三五年九月に川底陥没で水没した福岡県豊州炭鉱、六七遺体未収容のまま閉山と決定。

22(火)●呉造船、国産初の立体駐車施設を完成し公開。

23(水)●歯舞付近で昆布漁船など一三隻をソ連が拿捕。

24(木)●文部省、高等専門学校の設置基準を決定。

25(金)●閣議、国際収支改善で国産品愛用運動を決定。

26(土)●東京都乗用旅客自動車協会、タクシー増車に対処するため運転者養成所の規模拡大を決定。

27(日)●多賀城廃寺が東北最古の城柵と東北大調査。

28(月)●池田首相、フルシチョフ親書の日米安保非難に、「領土返還が先決」との返書を送る。

29(火)●東京女子医大病院で、前日心臓手術を受けたRhマイナス型血液の幼児が死亡。

30(水)●ソ連、核実験再開決定と発表(9月1日再開)。

31(木)●日赤本社で移動採血車公開(翌日から稼働)。

▲ハマーショルド国連事務総長死亡(9月17日)コンゴ紛争解決のため北ローデシアへ向かっていたが、ウンドラ空港へ到着直前に飛行機が墜落し、乗員と同行の十数人が死亡した。

共同通信社

▲武州鉄道事件(9月20日)東京近郊の新線建設で、楢橋元運輸相ら13人が贈賄容疑で逮捕。写真は29日に収監の永田大映社長(左端)。後、楢橋らが有罪、永田らは無罪となった。

共同通信社

読売新聞社

▲第2室戸台風(9月16日)昭和9年の室戸台風と同じコースを通った台風18号は、17日に能登半島を通過した。近畿地方を中心に被害は広がり死者・行方不明は202人になった。写真は高潮と重なって、水が引かない17日の大阪市内。

朝日新聞社

◀鹿児島大火後の朝礼(10月2日)鹿児島市の住宅密集地から未明に出火、804世帯、3061人が焼け出された。写真は南小学校で行われたこの日の朝礼。着のみ着のままで逃げ出した子どもたちが、先生の点呼にこたえた。

▶愛知用水完工通水式(9月30日)木曽川の水を取り入れ、濃尾平野から知多半島をうるおす、延長112キロの新水路。総工費430億円の水利事業で、力強い水流に地元民から歓声が起こった。写真は岐阜県八百津町の取水口での式典。

昭和36年9月

1(金)●ベオグラードで非同盟諸国首脳会議を開催。
2(土)●日銀の市中銀行貸し出しが初の一兆円突破。
3(日)●三船敏郎、「用心棒」(黒澤明監督)でベネチア国際映画祭の最優秀男優賞を受賞。
4(月)●岩手県で日本脳炎が集団発生、患者三三人に。
5(火)●ケネディ米大統領、地下核実験再開を命令。
6(水)●文部省、三九年度までに理工系学生を二万人とする増員計画を策定。
7(木)●航空自衛隊岐阜基地で練習機が基地内の劇場に墜落。二人死亡、四棟四四七〇平方㍍全焼。
8(金)●愛知紡績安城工場で集団食中毒。三〇人重症。
9(土)●三重県立大医学部博士号不正事件で、教授六人と開業医五一人らが贈収賄で書類送検。
10(日)●炭労、七月以来賃金未払いの福岡県大正鉱業の労組員全員に生活保護を申請するよう指令。
11(月)●国土地理院、洪水などの水害危険地図を発表。
12(火)●東京の芝浦下水処理場に汚泥処理工場が完成。
13(水)●北富士演習場問題で忍草入会組合が民生安定策を示した政府案に同意(18日ほかの組合も)。
14(木)●東芝、世界初の一四型カラーテレビを発表。
15(金)●東京銀行、外国人旅行者を対象とした自由円(外貨交換可能)旅行小切手の発行を開始。
16(土)●台風一八号、四国、近畿を横断(第二室戸台風)。
17(日)●気象庁、ソ連の核実験で放射能は札幌が最高と、前日からの測定値を発表。
18(月)●全銀協、五輪協賛割増金つき定期預金を創設。
19(火)●神奈川県教委と県教組、全国一斉学力調査の実施を氏名でなく番号記入によるなどで合意。
20(水)●東京地検、武州鉄道汚職で楢橋元運輸相逮捕。
21(木)●早大エクアドル遠征隊、チンボラソ山で遭難。
●保健体育審議会、給食費の値上げで副食物をふやすなど学校給食の改善策を答申。
22(金)●列国議会同盟、中国の国連加盟案を承認。
23(土)●全日空、初の国際線、鹿児島―那覇線を開設。
24(日)●広島在住の米人類学者一家が、ソ連核実験抗議のためヨットでナホトカに向け出航。
25(月)●日航、東京―札幌間に初のジェット機を就航。
26(火)●貿易・為替自由化促進閣僚会議、三七年一〇月から九〇㌫の貿易自由化を決定。
27(水)●大鵬と柏戸の横綱同時昇進が決定。
28(木)●前年度GNPは一三㌫台の伸びと経企庁発表。
29(金)●警視庁、青少年の間に流行している睡眠薬遊びに、強い対策を取るよう各署に指示。
30(土)●岐阜県八百津町で愛知用水の完工通水式挙行。

熊切圭介

▲皇太子夫妻、立山高原へ(10月16日)お二人は吉田工業黒部工場、県立畜産試験場を視察した後、富山地方鉄道の南富山駅から、電車とケーブルカーで立山山麓の千寿ケ原、天狗平まで登られた。

CORBIS-BETTMANN

▲スターリンの棺撤去(10月30日)スターリン批判が激しくなる中、ソ連共産党大会でレーニン廟からの撤去が決まった。写真は「修復のため閉鎖」の立て札が立つ、赤の広場のレーニン廟。

朝日新聞社

◀株価大暴落(10月23日)7月18日にはダウ平均株価1829円の東証最高を記録、ブームに沸いたが国際収支の悪化を不安視して下げ続け、この日1299円76銭と最安値をつけショックを与えた。

WWP

▼ヤンキースのマリス、本塁打新記録(10月1日)シーズン最終戦の162試合目で61号を放ち、ベーブ・ルースの記録(1927年)を破ったが、ルース時代と同じ154試合では、59本塁打にとどまった。

連合通信社

▶文部省、学力テスト強行(10月26日)日教組が民主教育を破壊するなどと強く反対する中、初めて中学2、3年生を対象にした学力テストが行われた。写真は実施に抗議の早朝集会を開く東京の教師たち。

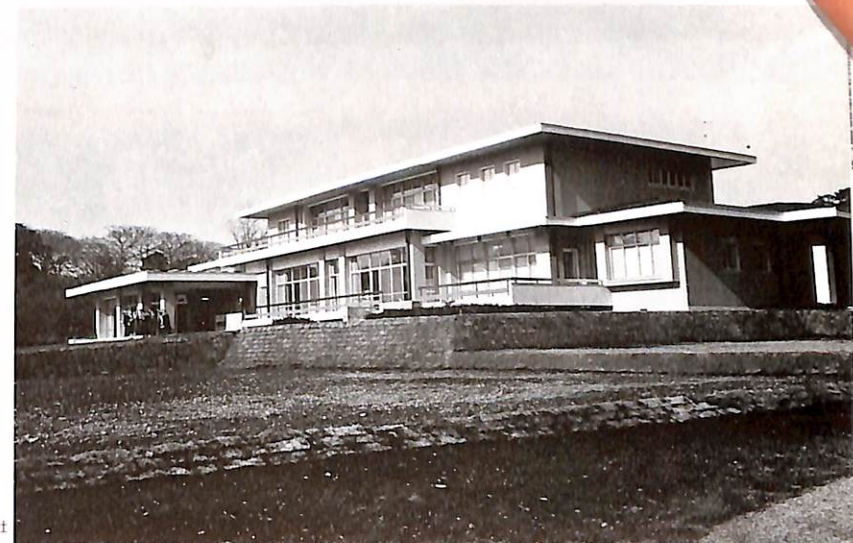
昭和36年10月

1(日)●国鉄、東北本線・信越本線など一三線で特急を新設し輸送力増強・速度向上をはかる。
2(月)●東京・大阪・名古屋で株式市場第二部が発足。
3(火)●首相、国後・択捉は千島列島に入らずと表明。
4(水)●東海道の幹線国道と縦貫中央道の着工決定。
●TBSテレビ「七人の刑事」放映開始。
5(木)●カンボジアのシアヌーク首相が来日。
6(金)●気象庁、前日からの降雨からソ連の核実験再開以来最高値の放射能を検出、と発表。
7(土)●東京で初の日本寮歌祭。一七組が参加。
8(日)●中日の権藤博投手、三五勝し新人最多勝利。
9(月)●東証、株価が一三四五円四〇銭で開所以来の暴落(23日には一二九九円七六銭の最安値)。
10(火)●東京の三楽病院から生後二日目の男児が誘拐される(12日容疑者逮捕、男児戻る)。
11(水)●東京で高校増設を求める集会に千人余が参加。
12(木)●郵政省、大口郵便利用者が宛先別に区分けした場合、一万通で一〇〇〇円の謝礼と発表。
13(金)●日本流行色協会がこの秋の流行色を「黒」と発表したが黒は初めて、と新聞に。
14(土)●町名地番制度審、町名地番整理の試案を発表。
15(日)●バレーボールで欧州遠征全勝の日紡貝塚帰国。
16(月)●通産省、『電力白書』発表。需給の逼迫を予測。
17(火)●東京・武蔵野警察署、自衛隊の依頼で戸口調査簿を利用して警官に入隊の勧誘をさせる。
18(水)●那覇で施政権返還要求大会。二万余人が参加。
19(木)●農林省、三五年度食糧消費動向を発表。栄養水準が向上し食生活の洋風化が顕著に。
20(金)●森光子主演の「放浪記」芸術座で初演。
21(土)●東本願寺、大映映画「釈迦」は史実に反すると全国末寺に非協力を指示(23日西本願寺も)。
22(日)●東京・世田谷区の牛乳店、店員の労働条件改善のため月一回の一斉休業を決めこの日実施。
23(月)●五輪組織委、東京・代々木に選手村建設と決定。
24(火)●初のロックフィル式ダム御母衣発電所が竣工。
25(水)●東京の白菜、大根などの卸値が品薄で高騰、前年の三~四倍、と新聞に。
26(木)●大分交通の電車、崖崩れで下敷き、三一人死亡。
●文部省、中学の学力テストを全国で実施。
27(金)●国連総会、五〇㍋級核実験中止決議案を可決。
28(土)●東京で炭鉱失業者救済の「黒い羽根」募金実施。
29(日)●警察庁がひき逃げ目撃に報奨制創設と新聞に。
30(月)●ソ連、五〇㍋級の大型核実験を実施。
31(火)●政府南方連絡事務所、沖縄の遺骨調査を再開。

▲国連事務総長にビルマのウ・タント就任(11月3日)ハマーショルドの後任として、国連総会で、満場一致で選出されたもの。アジアからは初の就任となった。

▲池田首相、朴議長と会談(11月12日)日韓の国交正常化交渉で、最大のヤマ場と見られる両首脳の会談が首相官邸の総理大臣室で行われ、大筋で合意した。写真左から二人目が朴議長、右端が池田首相。

▼吹上御所竣工(11月27日)吹上御苑に建設中だった天皇・皇后の新居が20日に完成し、この日、落成式が行われた。鉄筋コンクリート2階建てで、外装はクリーム色、広さは延べ1350平方メートル。

▼洋酒密造事件で偽造スコッチ押収(11月27日)日本製に英国製ウイスキーを混ぜ、有名洋酒の偽造レッテルを貼ったもので、都内のバー、ホテルの3分の1以上はこのニセ物だった。

▲シャンソンの女王、グレコ来日(11月24日)映画「悲しみよ今日は」で人気のグレコがコンサートを開き、「十字架」「オーベルニュ人に捧げる歌」などパリの心を歌った。

昭和36年11月

1(水)●国立国会図書館開館。蔵書は約二〇〇万冊。
2(木)●箱根で第一回日米貿易経済合同委員会開催。
3(金)●国連総会、事務総長にウ・タントを選出。
4(土)●秋田県南外村でサンマの飯鮨による食中毒。二日以来一六人が発病し九人が死亡。
5(日)●韓国政府、李ライン侵犯で拘留中の日本人漁船員九〇人と漁船五隻の釈放を発表。
6(月)●農林省、農産物高騰で流通機構調査班を設置。
7(火)●東京上野署、五万本の洋酒密造で一〇人逮捕。
8(水)●昭和女子大、政防法反対の署名運動を行った学生二人を登校停止、講師を解雇処分に。
9(木)●東京地裁、韓国が占拠している竹島の日本人鉱山所有者への鉱区税課税は適法と判決。
10(金)●海上自衛隊、北海道各地で合同演習を開始。
11(土)●アンネ、生理用品「アンネナプキン」発売。
12(日)●京都西陣着尺織物工業組合、不況のため戦後初めて織機一万二〇〇〇台の全面休機を実施。
13(月)●倉敷市大原美術館併設の陶器館で開館式挙行。
14(火)●高峰秀子、「名もなく貧しく美しく」でサンフランシスコ国際映画祭の主演女優賞を受賞。
●通産省、出光興産と三菱化成に石油コンビナートの設立認可を決定。
15(水)●東急に沖縄での観光業認可。日本資本では初。
16(木)●塩竈市で、市の発展に貢献した「長老」に年六万円を贈る条例(長老礼遇条例)が成立。
17(金)●三六年度の初任給平均は、高卒者一万一五六〇円、大卒者一万七一七九円と都労働局調査。
18(土)●早川電機(現・シャープ)、約三〇万円のカラーテレビ値下げ。一七インチ型は二五万円に。
19(日)●技術革新競争で外資導入が急増、と新聞に。
20(月)●大阪地検、飲酒運転による死亡事故には殺人罪を適用するなど交通取締り強化を表明。
21(火)●韓国、日本製テレビ二万台の無税輸入を決定。
22(水)●浅丘ルリ子ら五人、世界一周早まわり旅行に出発(五〇時間一五分の新記録で24日帰国)。
23(木)●天皇賞で「サチカゼ」が完走直後に心臓麻痺死。
24(金)●日銀、米銀行と二億ドルの外貨借款契約に調印。
25(土)●年金福祉事業団発足。積立金の還元融資機関。
26(日)●尾鷲市の発電所造成地で火薬爆発。一人死亡。
27(月)●天皇・皇后の新住居(吹上御所)の落成式。
28(火)●相互銀行の純益が過去最高の伸び率と判明。
29(水)●児童扶養手当法公布。母子家庭などに支給。
30(木)●本土との税額の差を利用した沖縄からの安い外国製品の密輸が急増、と新聞に。

▼中村錦之助、有馬稲子結婚(11月27日)大川東映社長夫妻の仲人で東急ホテルで神前結婚式。佐田啓二、岸恵子ら1000人の招待者が見守る中、高さ3メートルのケーキにナイフを入れた。2人はともに29歳。

▲音戸大橋開通(12月3日)呉市(手前)と広島県倉橋島の音戸町を結ぶもので、長さ172メートルのアーチ型。両岸の敷地が狭かったことから、らせん式道路が作られた。写真は完成間近の大橋。

▼三無事件発覚(12月12日)警視庁は「無税、無戦、無失業」の三無主義を掲げ、国会襲撃、内閣要人の殺害を計画したとして、五・一五事件の三上卓元海軍中尉をはじめ、旧陸士出身者ら13人を逮捕した。写真は押収された武器類。

▲インド軍、ゴア解放(12月18日)独立以来14年間、返還を要求していた西海岸のポルトガル植民地ゴアへの進軍を開始、翌朝、首都パンジムを制圧。同時にダマン、ディーウも解放され、450年におよぶポルトガルの支配を終わらせた。

▼初の女性中央選管委員長(12月19日)委員長に選出された大浜英子(60)は、婦人参政権運動に長くかかわり、家裁の調停委員の任命第一号となった。「きれいな選挙を実現したい」と語った。

昭和36年12月

1(金)●朝日放送、労組のストで放送中止(3日再開)。
2(土)●パリでの第三回世界柔道選手権でオランダのヘーシンク優勝。日本人以外の優勝は初めて。
3(日)●呉市と倉橋島を結ぶ音戸大橋の開通式挙行。
4(月)●食糧庁、正月用餅米を値上げせず特配と発表。
●奥羽本線大釈迦新トンネル工事現場で落盤。生き埋めの一二人が六〇時間ぶり救出される。
5(火)●山口地検、暴力団員への従来の科刑は軽すぎると主張し殺人・傷害事件で死刑を求刑。
6(水)●岩手県警、学テ阻止闘争の教組員一二人逮捕。
7(木)●新潟地検、長岡市の母子ひき逃げ(11月17日)犯人を初めて殺人罪で起訴と決定。
●秋田で二セ千円札発見(38年までに三四三枚)。
8(金)●寿命は男六五・四、女七〇・三と『厚生白書』。
9(土)●伊東—伊豆急下田間の伊豆急行鉄道が開通。
10(日)●アルバニア、ソ連との断交(11月25日)を発表。
11(月)●ビキニ核実験(29年)で被爆した「第五拓新丸」の元乗組員が急性骨髄性白血病で死去。
12(火)●国会襲撃・閣僚暗殺計画が発覚(三無事件)。
13(水)●科学協力に関する日米委員会第一回会議開催。
14(木)●関税率審議会、自由化の一三三品目を答申。
15(金)●東京地裁、三七年より交通事故の損害賠償請求訴訟を専門に扱う民事特別部の新設決定。
16(土)●東大、大型電子シンクロトロンの完成を発表。
●沖縄解放祖国復帰促進懇談会、発足。
17(日)●愛知用水最後の工事、東郷調整池ダムが完工。
18(月)●インド軍、ポルトガル領ゴアに侵攻。
19(火)●大浜英子、女性初の中央選管委員長に選出。
●閣議、大人一九円、小人八円の入浴料を了承。
20(水)●刑法改正準備会、現行法全面改正草案を答申。
21(木)●中央公論社、「思想の科学」天皇制特集号を発売中止(26日評議員会が同社との絶縁を決定)。
22(金)●東京地裁、三四年の国会乱入など全学連の安保三事件で、被告三三人全員に有罪判決。
23(土)●米映画「ウエスト・サイド物語」封切。
24(日)●大蔵省、被爆者の医療費補償の拡大を決定。
25(月)●中卒初任給は中小企業の方が高い、と新聞に。
26(火)●労働省、「中学生キャディ」は労基法違反の疑いがあると調査票を全国のゴルフ場に送付。
27(水)●勤労者世帯収入は四万円弱と総理府家計調査。
28(木)●警視庁、交通安全推進する交通局新設を決定。
29(金)●出生率は過去最低の一・六七と人口動態調査。
30(土)●閣議、前年度比二四％増の次年度予算案承認。
31(日)●終夜営業の中野区の美容院に覆面男の強盗。

我楽多市（がらくたいち）

◀昭和36年4月、横山光輝作「伊賀の影丸」の連載が、「週刊少年サンデー」誌上でスタート。

光プロダクション

流行語　何かにつけて「プライバシー」

前年一一月、三島由紀夫の小説『宴のあと』が出版されたが、この年三月、モデルとされた有田八郎元外相が「プライバシーの権利を侵害された」として三島と版元の新潮社を告訴した。以来、何かにつけて「プライバシー」という言葉が使われるようになった。裁判は五年後に和解が成立したが、この裁判は日本人にプライバシーの権利を初めて認識させ、たんなる流行語以上の影響を与えた。

「交通戦争」。この年、自動車事故の死者が三年連続で一万人を超えた。「マイカー」という言葉が初めて登場したのもこの年だが、マイカー時代は同時に交通事故死が増加する時代の到来を意味した。それを表すのが交通戦争で、その後の日本は〝常在戦場〟の状態と化した。

「ラリる」。深夜喫茶にたむろする非行少年や少女たちの間で、睡眠薬遊びが流行した。ラリるはクスリによって意識が朦朧となることでその酩酊状態が最高の遊びとされ、時には朦朧状態でセックスすることも表した。この言葉はその後はやったシンナー遊びでも用いられた。

学問　花盛り、女性のユニーク博士

この一、二年、ユニークな女性博士が続けて誕生している。その二、三例を紹介すると、八年間、皿の洗い方を研究した皿洗い博士が大塚としえさん、島根大の助教授である。洗った後の食器につく細菌は五〇〇〇個（単位）以下が理想とされているが、日本では飲食店すら二〇〇〇個以下がやっと一割であることを指摘、特に洗い桶の非衛生的なことを突きとめた。

平松園江さんは県立福岡女子大の助教授。一二年間、おむつカバーの研究を続け、その衛生上の問題点を浮き彫りにして博士号を取った。その間に調べた赤ちゃんのオシッコが二万人分。

四〇年間、和服を縫うには短針よりも長針がいいと訴え、学位を取ったのが吉井ツルエさん。東京で和裁の学校を開いているが、女性の疲労や偏頭痛、ヒステリーなどが和裁の親指の疲れに一因があることを指摘、文部省の方針を変えさせた。

（「週刊女性自身」四月四日号）

サラリーマン　デートは月二回　費用は一〇〇〇円平均

一五〇人の独身サラリーマンを対象に、恋人（ガールフレンドを含む）とのすごし方について調査を行った。恋人がいる男性四五%、いない男性三七%で、いる人は平均三人持っている。デート回数は月二回が最も多く、次が一回と三回。デートの費用は男性が払うのが七六・七%で残りが割り勘。女性が払うというのは一例もなかった。その金額は一回一〇〇〇円が平均で全体の約半分。次いで五〇〇円から一〇〇〇円までが一〇%を占めている。

性経験は経験者が三六%で未経験が五二%。経験者の約半数が玄人を相手にしており、それも売春防止法施行前に「一度は……」と体験したケースが多い

（「婦人公論」一月号）

CM100年

▼製品広告ではなく、レナウンの企業イメージをCFに。

テレビCF「ワンサカ娘」（レナウン）

▲販売競争を背景に、1000万円の賞金が登場。

動物　樺太犬タローが〝国家公務犬〟に

無人の昭和基地で生きていたタローとジローが帰ってくる　ところが帰国前に死んだジローはともかく、タローについては目下、南極本部に「ひと目見せてほしい」「歓迎会を私の手で」という陳情やら「私が本当の飼い主だ」と名乗るものなどがどっと殺到して、大変な騒ぎ。

しかし南極本部では、それらのいっさいを拒絶する方針を決めた。〝タロー〟があまりに有名になりすぎたため、どこに譲っても幸せな老後を送れそうもない　それならいっそのこと本部で、後半生を国家公務犬?として遇することにしたという。

（「北海道新聞」三月一一日）

三面記事　〝公然猥褻罪〟すれすれ

七月七日、警視庁防犯課と丸ノ内署が、私服警官七〇人を動員して日比谷公園と皇居前広場に集まるアベックの実態調査を行った。それによると芝生やベンチに並んで座り〝ハタ目にもほほえましく〟語りあっていたのが一三三六組。この夜は金曜日だったが、土曜日には軽く二〇〇〇組を突破する。「寝ころんだり、時折キスをしているもの」が四六一組で、風紀の乱れと犯罪を誘発するおそれがあると断定された「公然猥褻の疑いがあるもの」が四〇組。ほとんどは日比谷公園の暗闇の中で、そのものズバリ、またはそれに近いものばかり。この四〇組と寝ころんでいた四六一組に対して丸ノ内署は「公然猥褻罪すれすれです」と注意した。

（「週刊新潮」七月二四日号）

愛想がよすぎたニセ警官の失敗

子どもの頃から警察官が好きで好きで、一度本物の格好をしたいとあこがれ、ついに東京・赤坂署から制服や手錠、警棒など一式を盗み出した店員（二二）が逮捕された。男は盗んだ制服を着て、東海道本線の夜行列車に乗りこんだ。折から車内に泥棒が横行していたので〝特別警戒〟をするつもりだったのだ。

寝台車を中心に警戒を続け、車掌が通るたびに「ごくろうさん。今、泥棒を追っていますので」と言って敬礼した。がそれがアダになった。車掌が本物の私服に、「警官にしては愛想がよすぎる」と告げたのだった。

（「サンケイ新聞」四月八日）

▲「北帰行」などが生まれた新宿のうたごえ喫茶「灯」。

朝日新聞社

はやり歌

上を向いて歩こう

上を向いて歩こう
涙がこぼれないように
思い出す　春の日　一人ぼっちの夜
上を向いて歩こう
にじんだ星をかぞえて
思い出す　夏の日　一人ぼっちの夜
幸せは雲の上に
幸せは空の上に
上を向いて歩こう
涙がこぼれないように
泣きながら歩く　一人ぼっちの夜
（口笛……）
思い出す　秋の日　一人ぼっちの夜
悲しみは星のかげに
悲しみは月のかげに
上を向いて歩こう
涙がこぼれないように
泣きながら歩く
一人ぼっちの夜
一人ぼっちの夜
（口笛……）

東芝EMI提供

▲永六輔作詞、中村八大作曲、歌・坂本九の六・八・九トリオが生み出した世界的な大ヒット曲。

銀座の恋の物語

心の底まで　しびれるような
吐息が切ない　ささやきだから
泪が思わず　わいてきて
泣きたくなるのさ　この俺も
東京でひとつ　銀座でひとつ
若いふたりが　初めて逢った
真実の恋の　物語
誰にも内緒で　しまっておいた
大事な女の　真心だけど
貴方のためなら　何もかも
くれると言う娘の　いじらしさ
東京でひとつ　銀座でひとつ
若いふたりの　命をかけた
真実の恋の　物語

テイチク提供

▲石原裕次郎が牧村旬子とデュエットしてロングセラーに。大高ひさを作詞、鏑木創作曲。

地方　第二の佐賀の乱？　分町問題を天皇に直訴

〔佐賀発〕民主主義の世の中、佐賀県塩田町大草野地区で思わぬ天皇直訴問題がもちあがった。

同地区は昭和三一年以来、分町問題でもめ続けていた。住民の一部はそれぞれ嬉野町、鹿島市への合併を希望していたが、塩田町に合併されたため分町を希望、容れられないと見るや、座りこみ、ハンスト、町税の滞納とあらゆる抗議を続けてきた。それでも町側がまったく耳を貸そうとしないため、今回の天皇・皇后九州ご旅行の機会をとらえて〝直訴〟の挙に出ようとしたもの。すでに四月一三日、村落内の天皇の通る県道の両側には「分町貫徹」のムシロ旗が二〇〇本立ち並び、車も止めようと息まく始末。

このニュースに県民は「県のツラよごしだ」「天皇は国の象徴で分町には何の権限もない」とハチの巣をつついたような騒ぎ　ついに池田直県知事が現地に乗りこみ、「分町問題は早急に解決する」ということで、ムシロ旗はようやく取り下げられた

（「フクニチ」四月一九日）

共同通信社

▲4月、富山市が「チンドンコンクール」開催。50組参加。

花柳界　芸者さんの同人雑誌を神戸の花街で刊行

神戸の花街・花隈のオネエさんたち三〇人が、短歌、俳句、川柳などを一冊にまとめた雑誌を出した。題して「はなくま」。一八〇ページ、定価五〇〇円也。

「やせ薬、飲んではみたがあきらめた」

「あれも脱ぎ、これも脱ぎ捨て床の中」

「朝なれや、あわてて拾うクズチリ紙」

「どの男も肥れる女好きときき、チーズを食べる好きでなけれど」

という怪作ぞろいで、座敷で旦那方に売りこめばベストセラー間違いなしと意気軒昂

（「週刊文春」一月三〇日号）

この年の初もの　クルクルまわる「元禄ずし」大阪・梅田にオープン

●男性向け美容室　美容家の大関早苗さんが始めた

●学童保育　東京・板橋区でスタート。

●ポリネシア料理　東京のホテル・ニュージャパンに登場

●酸素ボックス　大阪に登場　一回一〇円。

世界の動き

5月16日、韓国でクーデター勃発！
朴正熙少将"権力掌握"までのシナリオ

▲国会議事堂に軍事革命委員会（後の国家再建最高会議）がおかれ、厳重に警備された。 WWP

▲クーデター後、初めて報道陣の前に姿を現し「権力は軍事革命委員会が掌握した」と語る、張都暎陸軍中将（左）と朴正熙少将の二人。実質的な指導者・朴少将は前年、第2軍の副司令官に就任していた。 東亜日報

▲ソウル市内の要所には戦車部隊も投入され、夜が明けても市民の姿はほとんどなかった。 WWP

一二年間におよぶ李承晩大統領の独裁体制に抗議して、一九六〇年四月一九日、学生と市民は決起した。「四・一九革命」である。デモは全国に広がり、追いつめられた李承晩はハワイに亡命した。しかし、六一年七月に、より強力な〝独裁者〟が登場したのである。

三六〇〇人で成功した未明の軍事クーデター

ソウルはまだ夜明け前だった。漢江に架かる橋で、突然激しい銃声が鳴り響いた。クーデター部隊の先陣を切った海兵隊第二中隊が橋を渡ろうとする際、阻止線を張っていた憲兵隊との間で銃撃戦になったが、抵抗はすぐにやみ、軍用トラックやジープが次々と橋を渡った。一九六一年五月一六日午前三時半、軍事クーデターはこうして始まった。

クーデター部隊は、事前の計画どおり、中央政庁、国会議事堂、陸軍本部、ソウル市警察など主要拠点を占拠する。時の張勉首相は、市庁舎広場に近い半島ホテルに住んでいたが、軍が襲った時には、すでに身を隠していた。

夜が明けた午前五時半、占拠された国営放送局は、クーデター部隊が用意した「軍事革命布告文」を流す。

「親愛なる愛国同胞の皆さん。これまで隠忍自重してきた軍部は、今未明を期して一斉に行動を開始し、国家の行政・立法・司法の三権を完全に掌握、続いて軍事革命委員会を組織しました……」

反共親米、腐敗と旧悪の一掃、経済再建などが決起の目的で、それが達成されれば民政に委譲すると宣言。軍事革命委員会の委員長は張都暎中将となっていた。

クーデターに参加した部隊は、海兵旅団、第一空挺団、陸軍の三〇、三三予備師団、第六軍団砲兵団第六管区通信隊の三六〇〇人の将兵だった（兵員の数は米軍発表）。

午前九時、軍事革命委員会は全土に戒厳令を敷き、空港と港湾を閉鎖、金融を凍結した。市内の中心部は武装兵が一〇メートルおきに立って警戒にあたり、検問所を設けたが、市民は落ち着いていた。

後に野党指導者となる金大中（三五）は、三日前の補欠選挙で初当選したばかりで、この日は選挙区にいた。急いでソウルに車で向かう途中、ラジオのニュースで米国のグリーン代理大使が張勉内閣支持を表明しているのを聞いた。

「私はそれを聞いて、これで一安心、反乱はすぐに鎮圧されるだろうと思いました」と氏は『わたしの自叙伝』（日本放送出版協会）の中で述べている。

その頃、グリーン代理大使と、国連軍のマグルーダ司令官は、尹潽善大統領を訪ね、クーデター鎮圧のために韓国軍出動を求めた。韓国軍の作戦用兵権は国連軍にあったが、統帥権は大統領が握っていたからだ。しかし、クーデター支持に傾いていた大統領がこれを拒否すると、米国はお手上げだった。

この日は、以後三二年間におよぶ軍人支配の歴史の始まりとなったのである。

朴正熙が前面に登場し一八年もの間、独裁者に

クーデターから二日後の一八日、尹大統領の呼びかけに応じ、逃亡していた張勉首相が姿を現し、内閣は総辞職の手続

往きて還らぬ

▲7月17日　タイ・カッブ(74)
"野球の神様"と呼ばれたアメリカの大リーガーで、首位打者連続9回など、90の大リーグ記録を達成した。

▲12月4日　津田左右吉(88)
歴史学者、元早大教授。古代史研究で知られ、昭和15年『古事記及日本書紀の研究』など4冊が一度に発禁となる。

▲12月25日　矢内原忠雄(68)
元東大総長。クリスチャン、平和主義者として知られ、昭和12年論文「国家の理想」発表、反戦思想と指弾された。

▲6月6日　カール・G・ユング(85)
スイスの精神病理学者で、独自の分析的心理学を提唱。著書に『無意識の心理学』『心的類型』など。

▲5月5日　メルロ・ポンティ(53)
サルトルと並ぶ実存主義の理論家。フッサールの現象学に影響を受け、『行動の構造』『知覚の現象学』などを著す。

▲5月11日　小川未明(79)　童話作家。新浪漫派作家から童話に転向。児童文学のリーダーとして活躍。短編集『愁人』、童話集『赤い船』など。

▲7月2日　E・ヘミングウェー(61)
アメリカの小説家。『日はまた昇る』『老人と海』など数々の名作を生み、1954年ノーベル文学賞受賞。猟銃自殺した。

▼9月21日　宇野浩二(70)
小説家。大正8年「蔵の中」でデビュー。恋愛小説で活躍し、昭和26年『思ひ川』で読売文学賞受賞。

▲5月13日　ゲイリー・クーパー(60)
アメリカ映画を代表するスター、西部劇などで活躍。アカデミー賞を2度受賞。代表作は「モロッコ」「真昼の決闘」。

▼1月16日　古川緑波(57)
エノケンと並ぶ昭和の代表的な喜劇俳優。戦前は「笑いの王国」、古川緑波一座で活躍。戦後は映画、テレビに出演。

▲2月13日　村松梢風(71)
小説家。大正6年「琴姫物語」発表。人物評伝で知られ、代表作に『本朝画人伝』『近世名勝負物語』など。

▲2月21日　赤木圭一郎(21)
「トニー」の愛称で親しまれた日活の人気スターで、昭和35年には11本の映画に出演。ゴーカート事故で急死した。

外から見たNIPPON

母親と赤ん坊に注目したリースマン夫人の『日本日記』

——佐伯　修

アメリカの社会学者デイビッド・リースマンは、妻のイーブリンとともに、この年の九月末から一二月の初めまで日本に滞在、「六〇年安保」闘争の嵐が吹き荒れた直後の日本を歩いた。

その記録は、夫妻の共著『日本日記』に詳細に綴られているが、二人は東京、京都、大阪、蒲郡で、学者、ジャーナリスト、実業家から、労組や学生運動の活動家まで、実に多くの人々と会い、少しでも多様な日本人の考え方に触れようとしている。新しく駐日大使となるライシャワーの評判から、「大部分中国人や朝鮮人が運営している」パチンコと呼ばれる「芸術的効果と色彩」を持つ娯楽のこと、黒澤明や小津安二郎から、「人間の條件」にいたる日本映画、吉本隆明を信奉するブント系全学連、等々をも、彼らは見逃していない。

イーブリンは、今回のデイビッドのフィールドワークのほとんどに同行しているが、『日本日記』の彼女の執筆部分には、歌舞伎や京都の庭園の印象といったもの以外に、日本の女性や、日本に住む外国人たちの興味深い意見が、数多く記録されている。それは、短篇小説作家である彼女が、自身、有能なフィールドワーカーであることを感じさせる。

以下は、コーディールとナットという二人のアメリカ人から、スナックバーで彼女が聴いた話から。

「かれ（コーディール）は、アメリカ人の赤ん坊（三、四ヵ月の子供）は日本人の子供よりもはるかに活発で声も大きい、と言った。アメリカ人の母親の方が赤ん坊に多く話しかけ、日本人の母親の方が子供をよくあやすのだそうである。かれの観察では、アメリカ人の母親は、赤ん坊の時から子供の反応や活動を奨励することに重きをおき、これに対して、日本人の母親は、おだやかで落ち着いた幸福な赤ん坊を期待する、とのことだった。（中略）ナットは、六歳位の子供が学校や幼稚園から一人でバスに乗ってくるのを見た、と言った。そんな幼い子供にどうしてできるのだろう。コーディールは、車掌か運転手がこのバスでよいと教えて乗せてやるのだ、と説明した。日本では誰もが子供を愛している。そして日本はある意味で一つの大きな家族なのだ」（鶴見良行訳）

彼らはまた、日本人が、親子で入浴することや、カウンセリングなどを受けずに精神の安定を保てることを不思議がる。日本の読者には、そんな発想自体が興味深い。

▼張中将と朴少将は記者会見で、腐敗・無能の政治家や官僚を批判し、反共と民生安定を強調した。　東亜日報

▶作家でもあるD・リースマンの妻イーブリン。
みすず書房提供

きをとった。全権を握った革命委は一九日、「国家再建最高会議」と改称、次々に「革命」を実行していく。不良青年を検挙し、風俗営業店を摘発し、買い占めや売り惜しみをした商人を逮捕……。

前年の李承晩大統領失脚後、町にはあらゆる形のデモ行進があふれ、経済的に困窮していた一般国民の不安は募っていた。後を継いだ張勉政権に比べて、快刀乱麻を断つような新政権の施政は、人々に清新な感じを与えたのである。

しかし、新政権は六月六日、秘密諜報機関の韓国中央情報部（KCIA）を発足させ、同月二一日には「革命裁判所および革命検察組織法」を公布、政敵を粛清して、独裁色を強めていく。

七月三日、クーデターの第二幕が開いた。国家再建最高会議議長の張都暎中将ら四四人の将校が逮捕され、副議長の朴正熙少将（四三）が議長に昇格したのである。朴少将の暗殺をくわだてたという容疑だったが、権力争いに、最高会議の実権を握る朴少将が勝ったのだ。

こうして政権の座についた朴正熙は、後に大統領に就任、民政委譲を無視し、一九七九年一〇月に部下のKCIA部長に暗殺されるまでの一八年間、独裁者として君臨する。この間、一九六五年六月に日韓条約を結ぶと、日本からの無償資金や借款をテコに国内産業を浮揚させ、近代化に向かって突き進んでいった。

クーデター後、「再建しましょう、勝共しましょう……」という歌が作られ、子どもたちが歌わされた。小学校の入学式で歌った覚えがあるという「東亜日報」の尹相参記者（四〇）が言う。

「朴政権の六〇〜七〇年代を振り返ると、年率一〇％近い経済成長率をあげたことで、政治家としての手腕を評価する声もありますが、その後の全斗煥—盧泰愚と続く軍部独裁のレールを敷き、賄賂政治を蔓延させた負の遺産が大きい。韓国は今、その清算をしているところなのです」

朴正熙（1917〜1979）
韓国の陸軍軍人、政治家。慶尚北道に生まれ、一九四四年日本の陸軍士官学校を卒業、五七年に陸軍大学を卒業した。六一年のクーデターで国家再建最高会議議長に就任して独裁体制をとり、六三年選挙で大統領に就任。七九年に殺害された。

週刊YEARBOOK 日録20世紀 1961
●ガガーリン少佐、宇宙へ!
5月6日号
第1巻第12号 通巻12号
編集人 近藤達士 発行所 株式 講談社 郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21
定価560円

雑誌 23701-5/6 Ⓛ 2001/1/1 T1123701050569

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社